

令和7年度

おきなわ県民カレッジ 報告書



生涯学習推進センター（美ら島沖縄学講座）
おきなわ県民カレッジ20周年 学長挨拶
第1回「祈りと近世琉球の再興～羽地朝秀の苦悩～」



奨励賞授賞式／開校20周年記念講話



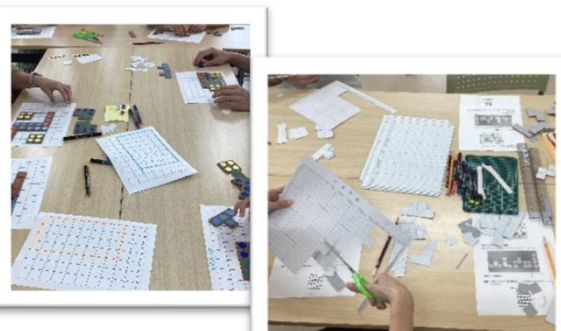
生涯学習推進センター（美ら島沖縄学講座）
第6回 戦後80年関連講座
「発掘調査で見つかった沖縄戦の痕跡、他」



県立那覇商業高等学校（学校開放講座）
「中学生のための簿記講座」



県立首里高等学校（学校開放講座）
「染色デザイン科 2025年度 体験学習」



県立陽明高等学校（学校開放講座）
「パズルで数学 ～テトロミノでピタッとパズル!～」

沖縄県教育庁生涯学習振興課



はじめに

「おきなわ県民カレッジ」は、国、県、市町村、大学等で実施している生涯学習に関する講座等を体系化し、県民の皆様に学習機会を提供するとともに、学んだことを評価・活用するために運営しております。

令和7年度は「おきなわ県民カレッジ」開校から20周年を迎えました。これまで本事業の推進に御協力を賜りました関係機関の皆様をはじめ、日頃から講座等に御参加くださる県民の皆様に心から御礼申し上げます。

節目となる本年度は、県民カレッジ学長である玉城知事の挨拶により美ら島沖縄学講座が開講し、8月の奨励賞授賞式では、県民カレッジ開校式の記念講話で御登壇いただいた津留健二氏が、人生100年時代を生きる上での学びの重要性について御講話くださいました。

主催講座の美ら島沖縄学講座では、自然・芸能・経済等の講座に加え、戦後80年の節目に、文化財を通して歴史・文化を後世に継承する重要性について理解を深めるため、関係機関と連携し、戦争遺跡や返還文化財、首里城等に焦点を当てた講座を開催しました。広域学習サービス講座では、各教育事務所において管内市町村等と連携して地域のニーズに対応した全22講座を開催し、学校開放講座では、陽明高校を含む3校で学校の特色を活かした講座を開催するなど、生涯学習機会の充実に取り組んでまいりました。

今後とも、これまでの成果や課題を踏まえ、「おきなわ県民カレッジ」が県民の学びを支える基盤としての役割を果たせるよう、関係機関と連携・協力しながら生涯学習振興・充実に努めてまいります。

おわりに、本事業の実施に当たり、御協力くださいました関係機関及び関係者各位に御礼申し上げますと共に、引き続き御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年3月

沖縄県教育庁生涯学習振興課長 堀川 恭宏

目 次

1	おきなわ県民カレッジ事業について	
(1)	主催講座数	1
(2)	連携講座数	1
(3)	入学者数	1
(4)	おきなわ県民カレッジ奨励賞受賞者数一覧	1
(5)	おきなわ県民カレッジ市町村別入学者数	2
2	主催講座の実施報告	
(1)	令和7度おきなわ県民カレッジ主催講座一覧	3
(2)	美ら島沖縄学講座	
第 1回	祈りと近世琉球の再興～羽地朝秀の苦悩～	5
第 2回	おもろ鑑賞講座vol.2	6
第 3回	憐れみ・身命・陰徳の琉球史-琉球人の〈生き方〉を探る(Ⅱ)-	7
第 4回	ヤンバルクイナたちは今 ～やんばるの奇跡の森にすむオンリーワナな生き物たち～	8
第 5回	沖縄の生活文化にある「そなえ」を見直す	9
第 6回	発掘調査で見つかった沖縄戦の痕跡 文化財としての戦争遺跡－第32軍司令部壕の調査成果を中心に－	10
第 7回	首里城復興について	11
第 8回	沖縄の食文化～琉球料理の魅力～	12
第 9回	沖縄芝居－鑑賞のご案内－	13
第10回	返還文化財と御後絵	14
第11回	沖縄の地域経済について考える	15
(3)	広域学習サービス講座(教育事務所名)	
	(国頭)やんばるの地で学び、豊かな未来創造へ繋げよう！	16
	(中頭)近くにあった！琉球の魅力再発見	20
	(那覇)沖縄の文化・自然を体験し、楽しく安全に学ぼう	24
	(島尻)「島尻はひとつ」魅力ある地域の再発見	28
	(宮古)みんなにとっての住み続けられるまちづくりをめざして	32
	(八重山)「家庭でできる豆腐作り」と「立体貼り絵とケント紙イラスト」にチャレンジ	36

(4) 学校開放講座(学校名)	
(陽明高等学校)パズルで数学「テトロミノでピタッとパズル！」	39
(首里高等学校)首里高等学校 染色デザイン科 2025年度体験学習	40
(那覇商業高等学校)中学生のための簿記基礎講座	41
3 主催講座受講生アンケートから	
(1) 主催講座受講生の状況	42
(2) 講座を受けた動機	45
(3) 今後学習したいこと	48
4 おきなわ県民カレッジ機関別連携講座数	50
5 おきなわ県民カレッジ開設要綱等	51

1 おきなわ県民カレッジ事業について

(1) 主催講座数(沖縄県教育委員会が企画・運営する講座)

	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年
美ら島沖縄学講座	11	11	10	9	9	11	11	11	12	10	11	10	11	11	11
受講者数(人)	510	393	329	320	503	581	888	1,084	861	542	404	410	651	732	998
広域学習サービス講座	6	6	6	6	7	25	25	25	25	22	25	25	29	28	22
受講者数(人)	224	257	330	540	810	626	585	504	540	390	447	517	602	603	580
学校開放講座	1	3	1	1	-	-	1	1	6	-	-	-	3	1	3
受講者数(人)	88	211	232	123	-	-	12	310	278	-	-	-	29	6	82
講座数の合計	18	20	17	16	16	36	37	37	43	32	36	35	43	40	36
受講者数の合計(人)	822	861	891	891	983	1,313	1,207	1,898	1,679	932	851	927	1,282	1,341	1,660

(2) 連携講座数

	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年
国・県関係機関	206	186	303	235	243	153	135	170	346	226	218	246	227	262	270
市町村関係機関	228	250	255	170	224	206	241	281	270	242	227	314	320	385	456
高等教育機関	253	358	231	204	109	114	122	279	197	22	133	127	157	169	194
各種教育関係機関	321	465	322	391	675	770	780	885	1,172	981	841	668	1,148	995	1,111
合計	1,008	1,259	1,111	1,000	1,251	1,243	1,278	1,615	1,985	1,471	1,419	1,355	1,852	1,811	2,031

(参考)おきなわ県民カレッジの講座種類

主催講座	美ら島沖縄学講座	生涯学習推進センターが企画・運営している講座。沖縄学をテーマに実施する講座
	広域学習サービス講座	各教育事務所が企画・運営している講座。地域に根ざしたテーマで実施する講座
	学校開放講座	県立学校等施設を開放して、各学校の施設や人材を生かして実施する講座
連携講座	国や県関係機関、市町村教育委員会、大学、公民館、図書館等が実施する講座で、おきなわ県民カレッジ連携講座として認定された講座	

(3) 入学者数

	H17~22	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年	合計
男性	924	159	171	131	124	109	112	139	122	382	151	190	287	275	376	554	8,153
女性	2,048	226	298	209	169	293	223	266	215								
合計	2,972	385	469	340	293	402	335	405	337	382	151	190	287	275	376	554	

(4) おきなわ県民カレッジ奨励賞受賞者数一覧(重複受賞者含む)

	H18~22	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年	合計
筑登之賞 (100単位)	38	40	18	17	24	41	16	3	28	26	28	2	1	7	15	17	321
里之子賞 (200単位)	22	2	2	14	21	11	8	3	4	8	3	1	1	1	8	13	122
親雲上賞 (300単位)	13	-	5	1	8	7	3	2	3	6	2	-	2	-	2	5	59
親方賞 (400単位)	8	2	2	-	8	7	5	2	2	5	2	-	1	1	-	3	48
学長賞 (500単位)	1	2	2	3	-	6	9	6	6	2	3	-	-	1	-	3	44
合計	82	46	29	35	61	72	41	16	43	47	38	3	5	10	25	41	594

(5)おきなわ県民カレッジ市町村別入学者数

		H22まで累計	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年	累計
1	国頭村	37	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	38
2	大宜味村	8	-	-	-	3	-	-	-	4	2	-	1	7	-	-	2	25
3	東村	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	6
4	今帰仁村	7	1	-	1	1	-	-	1	-	1	-	4	3	2	6	9	27
5	本部町	22	8	1	-	7	14	15	3	-	3	17	0	8	2	4	9	104
6	名護市	67	16	14	2	16	21	4	8	29	33	10	15	19	9	24	60	287
7	宜野座村	1	-	1	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	3	1	5	9
8	金武町	4	-	3	1	3	2	1	1	-	-	1	0	1	-	16	1	33
9	伊江村	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	3
10	伊平屋村	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
11	伊是名村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	3
12	恩納村	4	-	-	1	-	2	2	1	-	-	1	0	-	-	-	-	11
13	うるま市	149	4	6	3	4	4	14	10	9	8	3	0	5	5	2	15	226
14	読谷村	15	1	2	2	2	2	3	8	1	1	-	2	-	1	3	1	43
15	嘉手納町	11	1	-	1	-	1	-	4	-	-	-	-	-	2	2	-	22
16	沖縄市	96	24	11	6	2	14	6	11	19	9	8	15	12	8	18	19	278
17	北谷町	27	-	5	7	8	9	7	13	10	7	2	0	2	4	2	11	103
18	宜野湾市	148	47	17	25	17	19	15	27	22	24	3	5	12	12	20	29	442
19	北中城村	22	3	1	-	5	4	3	12	2	3	-	1	2	2	1	2	63
20	中城村	20	5	1	1	-	5	4	6	3	3	3	0	3	2	4	5	60
21	西原町	95	18	13	10	13	13	9	7	14	9	4	2	13	5	8	10	243
22	浦添市	188	23	24	26	22	34	23	42	27	32	16	14	11	30	28	37	577
23	那覇市	1,148	111	222	151	104	145	113	119	93	105	34	33	77	67	102	92	2,716
24	久米島町	-	-	1	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	1	-	5
25	南大東村	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
26	北大東村	12	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	13
27	豊見城市	115	17	22	30	18	24	27	23	14	27	3	2	5	9	9	9	354
28	糸満市	90	6	7	27	21	16	8	11	13	31	5	2	11	8	14	28	298
29	八重瀬町	85	9	8	2	8	7	4	8	9	8	1	7	8	6	3	10	183
30	南城市	64	10	28	5	10	13	8	11	10	3	3	6	8	5	18	13	215
31	与那原町	33	24	3	7	2	4	8	11	8	3	-	2	2	3	2	7	119
32	南風原町	80	11	15	12	15	9	11	15	12	15	3	4	9	8	12	11	242
33	渡嘉敷村	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
34	座間味村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
35	栗国村	2	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	5
36	渡名喜村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
37	宮古島市	177	17	28	18	11	38	33	13	17	7	10	13	3	33	22	114	440
38	多良間村	20	-	-	-	-	-	-	7	5	19	1	0	1	1	6	1	61
39	石垣市	193	29	36	-	-	1	14	25	14	23	22	60	63	48	48	52	576
40	竹富町	18	-	-	-	-	-	1	3	-	-	1	2	0	-	-	-	25
41	与那国町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	計	2,972	385	469	340	293	402	335	405	337	382	151	190	287	275	376	554	8,153

2 主催講座の実施報告

(1) 美ら島沖縄学講座

※受講者には個人PCでの視聴者数を含む。

講座名	開催場所	開催期間	ライブ配信	開催地	受講者数
1 祈りと近世琉球の再興 ～羽地朝秀の苦悩～	沖縄県立図書館（那覇市） 【各教育事務所、多良間、久米島、宮古島市、東村、玉城青少年の家、名護青少年の家】	5月16日（金曜日）	○	那覇市	153 人
2 おもろ鑑賞講座vol. 2	南部合同庁舎（那覇市） 【各教育事務所、多良間、久米島、宮古島市、玉城青少年の家、名護青少年の家】	6月4日（水曜日）	○	那覇市	113 人
3 隣れみ・身命・陰徳の琉球史 -琉球人のく生き方を探る(II)-	南部合同庁舎（那覇市） 【各教育事務所、うるま市東村、多良間、久米島、宮古島市、玉城青少年の家、名護青少年の家】	7月4日（金曜日）	○	那覇市	147 人
4 ヤンバルクイナたちは今 ～やんばるの奇跡の森にすむ オンリーワンな生き物たち～	沖縄県立図書館	7月19日（土曜日）	/	那覇市	55 人
5 沖縄の生活文化にある 「そなえ」を見直す	南部合同庁舎（那覇市） 【各教育事務所、うるま市多良間、久米島、宮古島市、玉城青少年の家、名護青少年の家】	8月13日（水曜日）	○	那覇市	112 人
6 「発掘調査で見つかった沖縄戦の痕跡」 「文化財としての戦争遺跡 -第32軍司令部壕の調査成果を中心に-」 (戦後80年関連講座)	沖縄県立埋蔵文化財センター（西原町）	8月31日（日曜日）	/	西原町	62 人
7 首里城復興について (首里城関連講座)	首里城公園（那覇市）	9月27日（土曜日）	/	那覇市	20 人
8 沖縄の食文化 ～琉球料理の魅力～ (首里城関連講座)	南部合同庁舎（那覇市） 【各教育事務所、うるま市多良間、久米島、宮古島市、玉城青少年の家、名護青少年の家】	10月15日（水曜日）	○	那覇市	159 人
9 沖縄芝居 一鑑賞のご案内一	国立劇場おきなわ（浦添市）	11月1日（土曜日）	/	浦添市	50 人
10 返還文化財と御後絵	沖縄県立図書館	12月6日（土曜日）	/	那覇市	54 人
11 沖縄の地域経済について考える	南部合同庁舎（那覇市） 【各教育事務所、うるま市多良間、久米島、宮古島市、東村、玉城青少年の家、名護青少年の家】	12月19日（金曜日）	○	那覇市	73 人
受講者延べ人数					998 人

(R6 732人) 前年度比+266人

(2) 広域学習サービス講座

【事務所名】テーマ	開催場所	開催期間（回数）	開催地	受講者数	
1 【国頭教育事務所】 やんばるの地で学び、豊かな未来創造へ繋げよう！	①北部合同庁舎（北部合同庁舎） ②大宜味村農業環境改善センター ③名護市中央公民館 ④宜野座多目的スポーツ施設	① 7月19日（土曜日） ② 8月23日（土曜日） ③ 10月25日（土曜日） ④ 11月29日（土曜日）	全4回	①名護市 ②大宜味村 ③名護市 ④宜野座村	136 人
2 【中頭教育事務所】 近くにあった！琉球の魅力再発見	①中部合同庁舎（中頭教育事務所） ②国指定重要文化財中村家住宅 ③狄堂湧き水群 ④沖縄県立図書館	① 6月20日（金曜日） ② 10月25日（土曜日） ③ 11月29日（土曜日） ④ 12月6日（土曜日）	全4回	①沖縄市 ②北中城村 ③北中城村 ④那覇市	114 人
3 【那覇教育事務所】 沖縄の文化・自然を体験し、楽しく安全に学ぼう	①国頭村楚洲伊江川 ※中止 ②沖縄県立博物館・美術館 ③沖縄県総合運動公園 ※中止 ④波の上ビーチ近辺	① 7月12日（土曜日） ② 8月15日（金曜日） ③ 10月11日（土曜日） ④ 11月8日（土曜日）	全4回	①国頭村 ②那覇市 ③沖縄市 ④那覇市	34 人
4 【島尻教育事務所】 「島尻はひとつ」 魅力ある地域の再発見	①中央公民館視聴覚室、金城哲夫資料館 ②琉球かすり会館 ③中央公民館研修室 ④南風原文化センター、他	① 7月24日（木曜日） ② 8月23日（土曜日） ③ 10月28日（火曜日） ④ 11月15日（土曜日）	全4回	①～④ 南風原町	76 人
5 【宮古教育事務所】 みんなにとっての住み続けられるまちづくりをめざして	①～④宮古教育事務所	① 6月8日（日曜日） ② 7月27日（日曜日） ③ 8月17日（日曜日） ④ 11月29日（土曜日）	全4回	宮古島市	136 人
6 【八重山教育事務所】 「家庭でできる豆腐作り」と「立体貼り絵とケント紙イラスト」にチャレンジ	①沖縄県立石垣青少年の家 ②～④八重山教育事務所	① 9月21日（日曜日） ② 10月18日（土曜日） ③ 10月19日（日曜日） ④ 11月16日（日曜日）	全4回	石垣市	84 人
受講者延べ人数					580 人

(R6 603人) 前年度比-23人

(3) 学校開放講座

	講座名	開催場所	開催期間	開催地	受講者数
1	パズルで数学 「テトロミノでピタッとパズル！」	沖縄県立 陽明高等学校	11月8日(土曜日)	浦添市	6人
2	首里高等学校 染色デザイン科 2025年度 体験学習	沖縄県立 首里高等学校	7月23日(水曜日)	那覇市	61人
3	中学生のための簿記基礎講座	沖縄県立 那覇商業高等学校	8月18日(月曜日) ～8月22日(金曜日)	那覇市	15人
受講者延べ人数 (R6 6人) 前年度比+76人					82人

主催講座受講者総数	1,660人
(R6 1,341人) 前年度比+319人	

祈りと近世琉球の再興 ～羽地朝秀の苦悩～

1 講座の内容

琉球の時代から幾度となく世替わりを経て、危機を乗り越えてきた沖縄。時代は薩摩ショックから半世紀。首里城は2度目の火災に遭い、かつての栄華を誇った琉球国は夢から目覚めたかのような現実に直面していた。政治経済は疲弊し、人々が社会不安に心を痛める中、国難を越え、大舵を振るった政治家がいた。向象賢こと羽地朝秀である。琉球再興に生きた人物から“危機の時代を生きる知”を探る。

2 講座の概要

- (1) 講師 賀数 仁然 氏 (沖縄大学地域研究所 特別研究員)
- (2) 日時 令和7年5月16日(金曜日) 午後2時から午後4時まで
- (3) 場所 本会場：沖縄県立図書館 3階ホール
サテライト会場：各教育事務所 (国頭・中頭・島尻・宮古・八重山)
※特別サテライト会場：多良間村、久米島町、玉城青少年の家
名護青少年の家、宮古島市立図書館
- (4) 受講者数 153名 (PC視聴含む。)
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
- ・開会の挨拶
 - ・主催者挨拶 (学長挨拶)
 - ・講師紹介
 - ・講話
 - ・閉会の挨拶



3 成果

- ・令和7年度はおきなわ県民カレッジ開校20周年を迎えることから、初回となる本講座で、学長である玉城知事から主催者挨拶をいただき、節目の年の良いスタートをきることができた。
- ・琉球史に関心があり、講師の賀数仁然氏の講話を聞きたいという受講希望者で、申し込み開始日の半日で定員に達した。
- ・感想として、講話内容がわかりやすく面白かった、琉球の素晴らしさや逞しさ等に誇りを持つことができた、羽地朝秀の生き方から学ぶことも多かった、琉球の歴史が楽しいと思えた等が寄せられ大変好評だった。
- ・初めての受講生にも美ら島学講座に興味関心を持ってもらう良い機会となった。

4 課題

冷房を利用する季節になると、場所によって温度差があり苦情が出るので、申し込み受付の際に羽織物を持参するよう声かけする等、工夫が必要である。

おもろ鑑賞講座vol.2

1 講座の内容

琉球王国時代に首里王府によって編纂された歌謡集「おもろさうし」を鑑賞する講座の第2弾。昨年に引き続いての開催。代表的なおもろを取り上げ、琉球文学研究の第一人者である波照間永吉氏の解説とともに、琉球語の表現の豊かさ・多様性を感じながら、古琉球の人々が詠んだ歌を鑑賞する。

2 講座の概要

- (1) 講師 波照間 永吉 氏 (名桜大学地域文化研究所 特任教授)
- (2) 日時 令和7年6月4日(金曜日) 午後2時から午後4時まで
- (3) 場所 本会場：生涯学習推進センター (南部合同庁舎4階)
サテライト会場：各教育事務所 (国頭・中頭・島尻・宮古・八重山)
※特別サテライト会場：多良間村、久米島町、玉城青少年の家
名護青少年の家、宮古島市立図書館
- (4) 受講者数 113名 (PC視聴含む。)
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
 - ・開会の挨拶
 - ・講師紹介
 - ・講話
 - ・閉会の挨拶



3 成果

- ・「おもろさうし」を鑑賞する人気講座の第2弾なので、楽しみにしていた受講生が多かった。
- ・独学では読みづらい「おもろさうし」も、講師のわかりやすい解説が理解の助けになり、今回始めて受講した人からも身近に感じられ楽しく勉強できたと感想が寄せられた。
- ・受講者の学習意欲を高める機会にもなり継続を希望する受講生が多かった。

4 課題

クーラーを入れると、毎回、寒い、暑い両方の苦情が出るので、次回から羽織物を持参するよう声かけが必要と思われる。

憐れみ・身命・陰徳の琉球史 —琉球人の〈生き方〉を探る(Ⅱ)—

1 講座の内容

「感情史」という側面から琉球史を検討・紹介する講座。素朴な人間的な感情は、時代や地域・国を越えて共通する側面が見られるが、それとともに、それぞれの時代や地域に特有の文化や社会思想による「感情」も見られる。琉球国時代の「憐れみ」「身命」「陰徳」などの用語に着目し、それらの意味合いをさぐりながら、これまでの琉球史研究において見過ごされていた史実に光をあてる。

2 講座の概要

- (1) 講師 豊見山 和行 氏 (琉球大学名誉教授 琉球大学客員研究員)
- (2) 日時 令和7年7月4日(金曜日) 午後2時から午後4時まで
- (3) 場所 本会場：生涯学習推進センター (南部合同庁舎4階)
サテライト会場：各教育事務所 (国頭・中頭・島尻・宮古・八重山)
※特別サテライト会場：多良間村、久米島町、玉城青少年の家
名護青少年の家、宮古島市立図書館、うるま市生涯
学習文化振興センターゆらてく
- (4) 受講者数 147名 (PC視聴含む。)
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム ・開会の挨拶
・主催者挨拶
・講師紹介
・講話
・閉会の挨拶



3 成果

- ・毎年好評の豊見山和行先生による琉球史講座の3回目。今回は感情史という側面から学ぶ講座で、「憐れみ・身命・陰徳の琉球史」というタイトルに興味を持って参加したという受講者も多かった。
- ・初めて身命や陰徳という言葉を知った。琉球人の考え方、生き方、人間性等に感動するとともに、沖縄人として誇りを持つことができた。また自分を含めて現代を顧みる機会にもなった等の感想が寄せられた。
- ・今年度も好評で、継続を希望する声が多かった。

4 課題

定員に達した時点で5名までキャンセル待ちを受付し、順次繰り上げで電話連絡、参加してもらった。それ以降の申し込みは断わったため、当日来所しても公平性を重視しお断りした。実際には当日の欠席が多く、空席ができるという状況で、どのような対処が良いのか課題を残すこととなった。

ヤンバルクイナたちは今 ～やんばるの奇跡の森にすむオンリーワンな生き物たち～

1 講座の内容

2021年に世界自然遺産に登録されたやんばるの森は、奇跡の森と称され固有な動植物に満ち溢れている。その中でも日本国内で唯一飛ぶことのできない鳥、ヤンバルクイナを始めとするやんばるを代表するユニークな生き物たちについて学ぶ。また、ヤンバルクイナの発見時から現在の生息状況まで、絶滅の危機を乗り越えてきたその保全についても学ぶ。

2 講座の概要

- (1) 講師 金城道男 (NPO法人 どうぶつたちの病院沖縄 副理事長)
(沖縄フィールドワーク)
- (2) 日時 令和7年7月19日(土曜日) 午後2時から午後4時まで
- (3) 場所 本会場：沖縄県立図書館 3階ホール
- (4) 受講者数 55名
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
- ・開会の挨拶
 - ・主催者挨拶
 - ・講師紹介
 - ・講話
 - ・閉会の挨拶



3 成果

- ・夏休み期間ということもあり、小中学生10名を含めていつもより若い世代の参加があり、多世代の方々に受講してもらうことができた。
- ・感想として、金城氏が撮り溜めている美しい写真を使ってのやんばるの自然や生きものの紹介がとてもわかりやすかった、クイズ形式の参加型講座では楽しく学ぶことができた、等の声が寄せられた。
- ・やんばるの固有種の現状、生態系、多様性について学んだ後、奇跡の森と呼ばれるやんばるの森をどのように守っていかなければいけないかを参加者がそれぞれの立場で考える良い機会になったようである。

4 課題

今後も、子どもが参加できる土・日曜日や夏休み、冬休みなどに講座を開催してほしいという要望が多かったので検討する必要がある。

沖縄の生活文化にある「そなえ」を見直す

1 講座の内容

災害に対する家庭での「食の備え」について学ぶ講座。本土発の高額な保存食糧を買い揃えるのではなく、亜熱帯気候・島嶼ハンデ・インフラ整備遅れの中で生きてきた沖縄の先人たちが、「自然」「健康」「行事」「共同体」を大切にする生活文化で育んだ「身近なものでおいしく食べる」知恵や保存の技術を再評価し、食のあり方を考える。

2 講座の概要

- (1) 講師 稲垣 暁氏 (沖縄国際大学非常勤講師・RBCラジオコメンテーター・防災士)
- (2) 日時 令和7年8月13日(金曜日) 午後2時から午後4時まで
- (3) 場所 本会場：生涯学習推進センター (南部合同庁舎4階)
サテライト会場：各教育事務所 (国頭・中頭・島尻・宮古・八重山)
※特別サテライト会場：多良間村、久米島町、玉城青少年の家
名護青少年の家、宮古島市立図書館、うるま市生涯
学習文化振興センターゆらてく
- (4) 受講者数 112名 (PC視聴含む。)
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
- ・開会の挨拶
 - ・主催者挨拶
 - ・講師紹介
 - ・講話
 - ・閉会の挨拶



3 成果

- ・近年の災害の多さから、災害時の「食の備えに」について学ばなければいけないと思い、受講した人という人が多かった。
- ・高額な保存食糧を購入しなくとも、沖縄の先人たちが生活文化で育んできた身近なものが保存食になるということを知ることができ良かったという感想が多く寄せられた。
- ・具体的には、「先人たちの知恵にあらためて気づかされた」「自分自身の生活を見直すきっかけになった」「気候風土で育つ島野菜を改めて見直した」「継承していくことの大切さを感じた」等、それぞれに学びがあったことが伺えた。
- ・満足度が大変高い講座であった。

4 課題

- ・講話の途中で休憩を挟んでほしいとの希望があった。休憩の取得については、講座のボリュームやレジュメの進み具合にもよるため、休憩の在り方については今後検討が必要。

「発掘調査で見つかった沖縄戦の痕跡」 「文化財としての戦争遺跡－第32軍司令部壕の調査成果を中心に－」

1 講座の内容

沖縄県内には数多くの「戦争遺跡」が残されているが、それ以外の遺跡からも発掘調査を行う中で、沖縄関連の遺構や遺物が発見されることがある。今回の講座では、沖縄県埋蔵文化財センターが実施した発掘調査によって明らかになった沖縄戦の一端を学ぶ。また、沖縄戦の戦争遺跡として初めて県指定史跡となった第32軍司令部壕の調査成果の速報や、今後の保存・活用の見通しについても学ぶ。

2 講座の概要

- (1) 講師 大堀 皓平 氏 (県立埋蔵文化財センター主任専門員)
新垣 力 氏 (県教育庁文化財課記念物班長)
- (2) 日時 令和7年8月31日(日曜日) 午後2時から午後4時まで
- (3) 場所 本会場：沖縄県立埋蔵文化財センター
- (4) 受講者数 62名
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
 - ・開会の挨拶
 - ・主催者挨拶
 - ・講師紹介
 - ・講話
 - ・閉会の挨拶



3 成果

- ・今年が戦後80年の節目であることを意識しての受講動機が多く見られたり、申し込みも定員を超えるなど、改めて沖縄戦に対する関心の大きさを知ることができた。
- ・発掘調査や遺跡の紹介から単に過去のことを知ることだけではなく、今を生きる自分たちが戦争遺跡をどう活かすかという意識の持ち方が重要であることを学ぶ内容の濃い講座であった。
- ・感想として大変勉強になった、戦争遺跡と開発の関係や発掘の意義と課題について考えさせられた、また平和ガイドをしている人々からは、戦跡や戦争遺跡を通して後世にどのように戦争の記憶を伝えていくか改めて考えさせられた等寄せられ、それぞれの立場での学びがある講座となった。

4 課題

- ・当日、申し込みをせずに会場に来る人が多くいたが、事前に定員に達していたためにお断りした。実際には無断欠席者が多く出たため、今後は講座をキャンセルする場合には事前に連絡を入れるよう申込時にアナウンスする必要がある。また、無断欠席者が出た場合に当日来場された方の申込を受け付けるかどうか対応を検討する必要がある。

「首里城復興について」

1 講座の内容

2026年の首里城正殿完成を目指し、復興が進められている首里城について、座学と実際に公園内を回ることによって首里城復興の今を学ぶ。座学で琉球王国の歴史・文化についての概要や首里城の建物の特徴や平成令和の復元の違い等も学ぶ。その後、要所要所で講師の説明を聞きながら、公園内を回る。

2 講座の概要

- (1) 講師 上江洲 安亨 氏 (一般財団法人 沖縄美ら島財団 首里城事業課副参事)
- (2) 日時 令和7年9月27日(土曜日) 午前9時から午前11時まで
- (3) 場所 首里城公園
- (4) 受講者数 20名
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
- ・開会の挨拶
 - ・主催者挨拶
 - ・講師紹介
 - ・講話(座学・フィールドワーク)
 - ・閉会の挨拶



3 成果

- ・講座の申込期間が4日間と短かったにもかかわらず20名の定員に対し、80余名の申し込みがあった。沖縄県民にとって念願の首里城正殿の復元が来年に迫り、現在の復元状況に大変関心が高いことが伺え、当日は抽選で当選した20人が一生懸命学ぶ姿が見られた。
- ・前半は座学で詳しい説明を受け、後半は城内の要所を回りながら、直接復興に携わる講師の講話を通して、たくさんの新しい発見があったという感想が多く寄せられた。
- ・首里城の復興についての学びを通して、改めて琉球王国時代の文化や芸術に誇りを感じる、二度と消失につながるような火災等が起こらないようにと願う声が聞かれた。

4 課題

- ・9月末ではあるが残暑厳しく、特に高齢者には少し厳しいフィールドワークとなったようである。涼しい時期の開催希望もあった。

沖縄の食文化 ～琉球料理の魅力～

1 講座の内容

沖縄の食文化について考える講座。日本遺産に認定され、ユネスコ文化財への申請も検討されている琉球料理は、琉球王国時代の宮廷料理から、日頃食卓に並ぶ庶民料理まで様々ある。講座では、沖縄の食文化、沖縄独自の料理文化を地元から発信できるように、その魅力を感じながら食材の組み合わせによる効能・調理法、健康と食事の関係性等について学ぶ。

2 講座の概要

- (1) 講師 伊是名 カエ 氏 (琉球料理传承人/管理栄養士/
(一社)トータルウエルネスプロジェクトオキナワ代表理事)
- (2) 日時 令和7年10月15日(水曜日) 午後2時から午後4時まで
- (3) 場所 本会場：生涯学習推進センター(南部合同庁舎4階)
サテライト会場：各教育事務所(国頭・中頭・島尻・宮古・八重山)
※特別サテライト会場：多良間村、久米島町、玉城青少年の家
名護青少年の家、宮古島市立図書館、うるま市生涯学習文化振興センターゆらてく
- (4) 受講者数 159名(PC視聴含む。)
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
- ・開会の挨拶
 - ・主催者挨拶
 - ・講師紹介
 - ・講話
 - ・閉会の挨拶



3 成果

- ・琉球料理传承人である講師から、琉球料理を深く学ぶことにより、改めて琉球料理の魅力や食文化の大切さを感じた受講者がほとんどであった。
- ・沖縄の伝統的な島野菜がいかにもすぐれているかを学び、健康長寿を考えると、地産地消の琉球料理をもっと食すると同時に、若い世代にも琉球料理の魅力や食の重要性伝えていかなければいけないことを実感したようである。日々の料理に島野菜をもっと取り入れたいという感想が多く寄せられた。
- ・調理実習を希望する声も多かった。

4 課題

- ・講師が本会場用に資料を持ち込んだ際には、資料の入手先(ウェブ上であればURL等)を各サテライト会場に情報提供した方がよい。
- ・講師の動きによって収録できないことがあることから、事前に講師へマイクから距離を取らないよう注意を促す必要がある。

沖縄芝居 ―鑑賞のご案内―

1 講座の内容

沖縄芝居の魅力について、国立劇場おきなわ芸術監督金城真次氏の講話を聞き、講話終了後、大劇場において沖縄芝居を鑑賞する。今回鑑賞する沖縄芝居の演目は、第1部「①喜歌劇 馬山川 ②舞踊 仲里節 ③喜劇 高等数学」、第2部「怪猫伝 化け猫～山田祝女殿内～」である。

2 講座の概要

- (1) 講師 金城 真次 氏 (国立劇場おきなわ 芸術監督)
- (2) 日時 令和7年11月1日(土曜日) 午後12時30分から午後3時45分まで
- (3) 場所 国立劇場おきなわ (浦添市勢理客4-14-1)

- (4) 受講者数 50名
- (5) 共催 公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団
- (6) プログラム
 - ・開会の挨拶
 - ・主催者挨拶
 - ・講師紹介
 - ・講話
 - ・閉会の挨拶
 - ・沖縄芝居鑑賞



3 成果

- ・昨年に引き続き、国立劇場おきなわ運営財団の協力のもと「沖縄芝居」の講話と「沖縄芝居」を鑑賞する講座をセットで行ったが、大変好評で申し込み開始日の午前中で定員に達する程の人気であった。
- ・舞台鑑賞のみではなく、沖縄芝居の講話が聞けることに魅力を感じて申し込んだ人が多かった。実際に沖縄芝居の歴史や背景がよくわかり、沖縄芝居鑑賞がより楽しみになったという感想が多く寄せられた。

4 課題

- ・土曜日開催の講座であったが、参加者のほとんどが60代以上で、若者の参加が少なかった。申し込み受付を、平日の9時から先着順としているが、仕事をしている人にとっては申し込みしにくい状況であり、若い世代が少ない一つの要因かも知れない。申し込み方法を含め、若い世代の受講生を増やすための工夫をしなければいけないと考える。

返還文化と御後絵

1 講座の内容

先の沖縄戦では、住民を巻き込んだ激しい地上戦により、多くの尊い命とともに人々の営みを伝える街並みや風景、文化財が失われた。幸いにも戦火を免れた品々も数多く国外へと持ち出されたことが知られている。本講座では、中城御殿から持ち出された文化財に焦点をあて、1953年の『おもろさうし』、『中山世鑑・世譜』の返還と昨年の琉球国王肖像画『御後絵』の返還、返還後の取組について学ぶ。

2 講座の概要

- (1) 講師 濱地 龍磨 氏 (沖縄県教育庁文化財課 主任)
(法政大学沖縄文化研究所奨励研究員)
- (2) 日時 令和7年12月6日(土曜日) 午後2時から午後4時まで
- (3) 場所 沖縄県立図書館 3階ホール
- (4) 受講者数 54名
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
- ・開会の挨拶
 - ・主催者挨拶
 - ・講師紹介
 - ・講話
 - ・閉会の挨拶



3 成果

- ・1945年の沖縄戦で多くの文化財が焼失したが、2024年3月、沖縄戦で流失したと見られる御後絵が返還され実物公開されたこともあり、御後絵を含む返還文化財に興味、関心のあつた多くの受講生が参加してくれた。
- ・文化財が返還されるまでの流れ、調査、修復に関すること、保存の仕方等を学ぶことができ良かった、またここまでこぎつけるまでの行程がいかに大変であるかを実際に携わっている県の文化財課専門職員から聞くことができ良かったという感想が寄せられた。小学生と父親の参加もあり、多世代に受講してもらえた。

4 課題

- ・受講者アンケートで、講座のチラシに図書館の地図があつた方がよいとの意見があつた。

沖縄の地域経済について考える

1 講座の内容

沖縄の地域経済を考えるきっかけづくりとして①沖縄の経済状況を共有し地域の雇用を担い地域経済を支えている中小企業について②深刻化している中小企業の後継者不足について③事業承継の最前線について、学術研究から明らかにした点や革新的な事業承継の仕組みについて学ぶ。

2 講座の概要

- (1) 講師 松平 好人 氏 (琉球大学 国際地域創造学部経営プログラム 准教授)
(立命館大学 OIC総合研究機構客員研究員)
- (2) 日時 令和7年12月19日(金曜日) 午後2時から午後4時まで
- (3) 場所 本会場：生涯学習推進センター(南部合同庁舎4階)
サテライト会場：各教育事務所(国頭・中頭・島尻・宮古・八重山)
※特別サテライト会場：多良間村、久米島町、玉城青少年の家
名護青少年の家、宮古島市立図書館、うるま市生涯学習文化振興センターゆらてく、東村
- (4) 受講者数 73名(PC視聴含む。)
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
- ・開会の挨拶
 - ・主催者挨拶
 - ・講師紹介
 - ・講話
 - ・閉会の挨拶



3 成果

- ・『沖縄の経済について』と称しての講座は初めての試みであった。受講者は、経済を全く知らないのでもう少し理解するために参加した人から、沖縄の中小企業の後継者不足に関心がある人、事業承継の最前線についての学術研究についての仕組み紹介に興味を持って申し込んだ人まで立場は色々であったが、それぞれに楽しく勉強することができた感想を寄せている。
- ・沖縄において中小企業が多いことを知っていても99.9%であることには殆どの人が驚き、後継者不足については大きな課題であることを考えさせられた講座であった。

4 課題

新分野での講座ということもあり、集客が課題であった。
講座資料の配布がないため、振り返りが出来ないという声が寄せられた。

沖縄戦の子どもたち ～やんばるの沖縄戦の実態を知る～

1 講座の内容

沖縄においては80年前に日本の中で唯一の地上戦があり、やんばるでは子どもたちが戦闘にまきこまれた。その節目の年に過去の出来事では済まされない戦闘が21世紀の今日、ウクライナやガザ地区で起きている。二度と同じ過ちを繰り返さないため、やんばるの地で起きた戦争の事実を今一度学び、平和維持のための心構えを再認識するきっかけとする。

2 講座の概要

- (1) 講師 川満 彰 氏（沖縄国際大学非常勤講師）
- (2) 日時 令和7年7月19日（土曜日）午前9時30分から午前11時30分まで
- (3) 場所 北部合同庁舎2階大会議室
- (4) 受講者数 51人
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
 - ・開講式
 - ・講師紹介
 - ・講話
 - ・質問、アンケートの記入
 - ・閉講



3 成果

・20名募集を大幅に上回る58名の申込者があった。昨年から各講座開催前の2ヵ月前の募集も大分、定着してきて若い世代の申込者も約2割いた。QR申し込み者も増えた。最終的には7名キャンセルがでたが、51名の参加者があり、“大変良かった（34名）・良かった（6名）”の好評価が多数を占め、活発な質疑応答で盛り上がった。

・やんばるの沖縄戦の子どもたちの実態を聞き、80年前の戦争が過去の事ではなく、我が子、孫らが戦争に巻き込まれるかも知れない不安を共有し、戦争が身近な問題と感じたとの声や、沖縄戦について、まだまだ学びが足りないので、継続を希望する人も多かった。

4 課題

・講座に参加した難聴者から、エコーのきいたマイクは聞き取りにくいと指摘された。次回からは音響調整に気を付けたい。

「沖縄のしきたり ここだけの話」 ～疑問を解明してお悩み解決！？～

1 講座の内容

沖縄には古くから伝わる年中行事が数多くあるが、その多くはそれぞれの家庭、門中、地域等の慣わしのもとで行われてきている現状がある。講師は、週間カフウの「琉球・沖縄年中行事なんでもQ&A」に連載され、どんな質問にも丁寧に納得のいく応答をしている。

本講座では、琉球沖縄のしきたりについて、日頃疑問に思っていることを共有し、解明してもらうことで肩の荷がおりて、自信をもって次世代へ伝えられるきっかけにしたい。

2 講座の概要

- (1) 講師 帰依 龍照 氏 (球陽寺 前住職)
- (2) 日時 令和7年8月23日 (土曜日) 午前9時30分から午前11時30分まで
- (3) 場所 大宜味村農村環境改善センター 2F大ホール
- (4) 受講者数 27人
- (5) 共催 大宜味村教育委員会
- (6) プログラム
 - ・ 開講式
 - ・ 講師紹介
 - ・ 講話 Q&Aタイム
 - ・ アンケートの記入
 - ・ 閉講



3 成果

今回は沖尚の高校野球の決勝戦と重なり、当日のキャンセル者が増えないか気になっていたが、36名の申込者に対し、事前に所要のキャンセル者が4名、野球観戦を理由に2名、当日は3名の欠席で、目標人数を上回る27名の参加があった。帰依さんは、悩みながら仕事をこなしている人達が、少しでも肩の荷を降ろして自信を持って次世代にバトンを渡してほしいとおっしゃっていた通り、活発なQ&Aタイムの時間でもユーモアも交え、丁寧に応えていた。長年引き継がれたしきたりは、地域性ではなく、家庭性で構わないと説いて下さったのは、とても気が楽になったとの声や、伝授してきたいとの声等が多数聞かれた。

4 課題

県民カレッジ広域学習サービス講座も、広く沖縄県民を対象にしているので、国頭地域に止まらず、南部からの参加者もあり、喜ばしいことである。しかし、国頭教育事務所管内は離島を除いて8市町村の地域がある。毎年、町村が偏らないよう開催地を選定している。開催地での講座展開の際は、地元住民の参加状況が気になる。今回も当初、目標定員に達したが、地元の申込者が全参加希望者の1割しかおらず、大宜味村教育委員会の担当者に現状を伝え、周知に協力してもらい、最終的にはやっと3割位の参加者が集まった。今後も、従来の周知のみならず、開催市町村教育委員会等との連携のもと開催地での周知も充実させたい。

『アーユルヴェーダ』の食事法 ～調理実践から学ぶ世界最古の医学～

1 講座の内容

健康長寿を願う県民の課題は、日々の生活を如何に過ごすかが問われている。その目標を達成するためには、規則正しい生活リズムを整えることはもちろんのこと、バランスの良い食生活、理想的な睡眠、適度な運動等が相互に影響し合っ何れも欠けてはいけないと言われている。本講座では、昨年大好評につき、第2弾として世界最古の医学「アーユルヴェーダ」を通して、要望の多かった食事法について実際に調理しながら学ぶことを目的とする。

2 講座の概要

- (1) 講師 知念 伽央梨 氏 ((株) i-PLANA代表)
- (2) 日時 令和7年10月25日 (土曜日) 午前10時から午後1時まで
- (3) 場所 名護市中央公民館 調理室
- (4) 受講者数 24名 (4名×6グループ)
- (5) 共催 名護市教育委員会
- (6) プログラム
 - ・開講式
 - ・講師紹介
 - ・講話・調理実習
 - ・質問、アンケートの記入
 - ・閉講



3 成果

昨年の「『アーユルヴェーダ』で日々の暮らしを生き生きと」の講座が大好評につき、今年度は第2弾として、「『アーユルヴェーダ』の食事法の実践」から学ぶ世界最古の医学を実施した。予想通り、関心が高く申込開始3日で定員の24名に達した。当日は、ウエルカムティーで参加者を迎え、メニューは秋の味覚と称して、南瓜のスパイスカレーをメインに数種類の料理をワンプレートで盛り合わせた「伝統食」調理の体験ができた。食事の前には綺麗にテーブルセッティングして心身が喜ぶランチタイムを体験できたとの声や、とても楽しく美味しく華やかで良かったとの声が寄せられた。合間に食事学の座学も取り入れ、内容豊富で受講者も大満足の様子であった。

4 課題

・調理室での前日準備の時間の確保がとれず、開場から受付開始時刻まで30分しかなかったのが慌ただしかった。また、受講者から、調理器材の準備をしてほしかったとの声が挙がった。調理実習がある際には、事前の準備時間等も含めた運営スケジュールとなるよう見直しを図る。

”スポーツと幼児教育の融合”～「biima sports」で基礎運動能力と非認知能力の向上に役立てよう！～

1 講座の内容

幼児期は、子どもの成長にとって非常に重要な時期と言われている。この時期に適切な刺激を与えることで、身体的な発達だけでなく、知的・社会的な能力も大きく向上すること。今日、子どもたちを取り巻く環境は年々変化し、情報過多になり心と体のアンバランスを引き起こし、不安定になってきている。そこで、本講座では、”biima Sports”で基礎運動能力と非認知能力の向上に役立てるきっかけとしたい。

2 講座の概要

- (1) 講師 久高 有加 氏
- (2) 日時 令和7年11月29日（土曜日）午前9時30分から午前11時30分まで
- (3) 場所 エントリー宜野座ドーム
- (4) 受講者数 15組 34名（大人17名、子ども17名）
- (5) 共催 宜野座村教育委員会
- (6) プログラム
 - ・開講式
 - ・講師紹介
 - ・実践（スポーツ体験）
 - ・質問、アンケートの記入
 - ・閉講



3 成果

例年だと親子対象の講座はキャンセル者が多いが今回は、キャンセル、欠席者が一人もいなかった。スポーツ体験の前半は様々な走るメニューや、非認知能力ゲームも取り入れていた。後半は4種の球技と、縄跳びの5種目をローテーションしながら、親子で楽しく体を動かしていた。参加者からは、楽しみながら伸び伸びと色々な球技に触れる機会ができて良かったとの声や、早速、biima sportsを習わせたいので、北部地域の教室オープンを望む声もあった。今回、広々とした設備が整った「エントリー宜野座ドーム」に参加者は大満足していた。国頭教育事務所以外の5市町からの参加者もあり、県内広く周知できたのは良かったと思う。

4 課題

- ・今回、3歳～6歳児を対象に行ったので、小さなお子さんをサポートするスタッフが数名いた方がいいと思ったとの意見があった。事務所の体制を考慮しながら、同様の講座を開催する際はサポートスタッフの配置も検討する。
- ・宜野座村教育委員会、公民館等から協力いただき周知を図ったが、開催地の宜野座村からの参加者が2組だけに留まった。次回からは周知方法についても検討する。

琉球に伝わる食の知恵～食べ物と心のケア～

1 講座の内容

〈食べ物薬・クスイムン〉の原典となる琉球の食医学書「御膳本草」から、沖縄にしかない薬膳の考え方や昔から伝わる琉球の食材の効能や調理などを学び、普段の生活に生かしていくことを学ぶ。

2 講座の概要

- (1) 講師 宮國 由紀江 氏(琉球薬膳研究家)
- (2) 日時 令和7年6月20日(金曜日) 午前10時から午後12時まで
- (3) 場所 中頭教育事務所 4階会議室
- (4) 受講者数 57人
- (5) 共催
- (6) プログラム
 - ・ 始めの挨拶
 - ・ 講話
 - ・ 質疑応答
 - ・ 終わりの挨拶



3 成果

- ・ 琉球の知恵が現代まで引き継がれていることを改めて考えさせられた。
- ・ 食材の説明や調理法など具体的で分かりやすく良かった。
- ・ 食材の効能が分かり役に立った。
- ・ ラード(豚脂)は身体に良い、酸化しない、豚肉は50分ほど湯がくのが良いゆでることで良質の油に変わるなど日常で身近な食材のお話で初めて知った事も多くすぐに役立てたい。
- ・ 沖縄の食文化を見直すとても良い機会になった。
- ・ 沖縄の食文化の奥深さ、先人の知恵の素晴らしさ、食はクスイムンの意味を学ぶことができ、大変良かった。

4 課題

- ・ 人気の講師で申込が殺到し電話対応など苦慮したので、今後は新聞掲載のタイミングなど周知について工夫したい。
- ・ 申込は70名以上あったが、当日のキャンセルが10名以上あったこと。特に申込が多い場合は、連絡を受けた時点でキャンセルの場合は事前に連絡するよう依頼するなど工夫したい。

中村家住宅～先人達の知恵を知る～

1 講座の趣旨

中村家住宅を訪問し、ガイドより説明を受け、先人たちが残してくれた知恵を紐解きながら琉球・沖縄の魅力を再認識する。

2 講座の概要

- (1) 講師 山下 幸二 氏(中村家住宅ガイド)
- (2) 日時 令和7年10月25日(土曜日) 午前10時から午後12時まで
- (3) 場所 中村家住宅
- (4) 受講者数 15人
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
 - ・ 始めの挨拶
 - ・ 講話
 - ・ 質疑応答
 - ・ 終わりの挨拶



3 成果

- ・ 講師は中村家住宅の歴史のほか、建築の内容などにも詳しく、いろいろな角度からの講話がとても学びになった。
- ・ 小学生の受講もあり受講者の年齢層が幅広く、以前から楽しみにしていたという声も多くあり、とても有意義な講座となった。

4 課題

- ・ 当日のキャンセルもあり、受付時の工夫が必要
- ・ 質問も多くあり予定の時間を過ぎるほど活発であったのは良かったが、事前に時間配分などについての打ち合わせも必要であった。

湧き水講座～荻堂周辺湧き水群散策～

1 講座の内容

中村家住宅の周りにある荻堂湧き水群を散策しながら、我々の命の源である「水」について学ぶ(距離にして約1km)。

2 講座の概要

- (1) 講師 桂 浩史 氏 (湧き水fun倶楽部)
- (2) 日時 令和7年11月29日(土曜日) 午前10時から午後12時まで
- (3) 場所 北中城村荻堂・大城近辺
- (4) 受講者数 15人
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
 - ・ 始めの挨拶
 - ・ 出席確認、講師の紹介、注意事項の周知
 - ・ ワーク開始
 - ・ 質疑応答
 - ・ 終わりの挨拶



3 成果

- ・ 天気にも恵まれ、参加者みなで和気あいあいと雰囲気よく講座を進めることができ、参加者同士の結びつきも深まったと感じる。
- ・ 講師が地元出身の方で、自治会ほか地域の方々との触れ合いが出来たことがよかった。
- ・ 湧き水に関心のある方が多いということが分かったこと、またアンケートの内容から、琉球の歴史や建築など琉球王国時代の背景についての講座の需要が高いことを知ることができた。

4 課題

- ・ マイクが無く、講師の声が参加者一人一人に届いていなかった(参加者からの声、要望があった。)

琉球王国の食を通じて味わい力をつける

1 講座の内容

琉球料理を通して「味わい力」を取り戻す！琉球王国時代の食への考え方から、現代人が失いつつある食への意識、食の大切さ、毎日の食事を五感で味わうことで、心も身体も満たされることを学ぶ。

2 講座の概要

- (1) 講師 宮澤 かおる 氏（沖縄料理研究家）
- (2) 日時 令和7年12月6日（土曜日）午前10時から午後12時まで
- (3) 場所 沖縄県立図書館
- (4) 受講者数 27名
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
 - ・ 始めの挨拶
 - ・ 出席確認、講師の紹介、注意事項の周知
 - ・ 講和
 - ・ 質疑応答
 - ・ 終わりの挨拶



3 成果

- ・ 琉球王国や琉球料理関連の講座は人気が高く、今回も多くの方に講座を提供することができた。
- ・ 埼玉県在住の講師を沖縄にいらっしゃるタイミングで講座を開催できたことは、次年度以降の講座について、講師へのアプローチをする際の参考になった。

4 課題

- ・ 講座の時間が予定より短い時間で終了したため、講師との調整などはそこも含めて密に行いたい。
- ・ 那覇市での開催だったため、中頭地区の方の参加申し込みが少なかったこと。場所はやはり、中頭を中心に考えたい（今回は講師が県外在住のため、交通の便を考えて場所が県立図書館となった経緯がある。）。

沢登り&川の安全を学ぼう！

1 講座の趣旨

沖縄の自然を体験し沖縄のよさを再発見する。
川の安全に関する講話を聴き、以後の川での活動時に生かす。

2 講座の概要

- (1) 講師 福島 誠司 氏 (沖縄県総合運動公園 野外活動ディレクター)
- (2) 日時 令和7年7月12日(土曜日)
現地での活動 午前10時から午後1時まで(午後12時から午後1時まで昼食休憩)
マイクロバス利用時午前7時から午後3時まで
- (3) 場所 国頭村楚洲 伊江川
- (4) 受講者数 雨天により中止—(25名)—
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
 - ・ 開講式
 - ・ 注意事項説明
 - ・ 沢登り開始
 - ・ 安全講話(随所)
 - ・ 昼食
 - ・ 閉講式



※今年度募集チラシ

3 成果

- ・ 雨天により中止

4 課題

- ・ 短期間で定員に達するほど人気があり、中止連絡時には次回参加を希望する声が多く寄せられたため、次年度の開催を前向きに検討したい。

バックヤードツアー

1 講座の趣旨

沖縄の文化を体験し、沖縄の良さを再発見する。
博物館・美術館の収蔵品の保存・展示等に関する工夫を知り、貴重な文化財に関する知識を深める。

2 講座の概要

- (1) 講師 平川 信幸 氏 (博物館班 主任学芸員) 玉城 早苗 氏 (美術館班 主任学芸員)
- (2) 日時 令和7年8月15日 (金曜日) 午後1時30分から午後4時まで
- (3) 場所 沖縄県立博物館・美術館
- (4) 受講者数 25人
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム ①開講式 注意事項説明 講師紹介
②博物館バックヤード見学 (A班) 美術館バックヤード見学 (B班)
③休憩
④博物館バックヤード見学 (B班) 美術館バックヤード見学 (A班)
⑤閉講式 アンケート記入、記念撮影、次回の案内



3 成果

- ・博物館・美術館のそれぞれのバックヤードで展示に至るまでの工程を見ることができた。
- ・学芸員や職員の細かな配慮やたくさんの業務によって、貴重な作品が守られていることがわかった。
- ・絵の修復やスクリーニングしている現場を実際にみることでより具体的な学びを得ることができた。
- ・貴重な作品の保管のために、建物の管理がしっかりなされていることがわかった。

4 課題

- ・活発に動き回る子どもが複数人おり、怪我や展示物への接触リスクが懸念された。
- ・講座の問い合わせ電話が博物館・美術館にかかっていた。

SUP・カヌー体験&海の安全について学ぼう！

1 講座の趣旨

沖縄の自然を体験し沖縄のよさを再発見する。
海の安全に関する講話を聴き、以後の海での活動時に生かす。

2 講座の概要

- (1) 講師 福島 誠司 氏 (沖縄県総合運動公園 野外活動ディレクター)
- (2) 日時 令和7年10月11日(土曜日)午前9時30分から午後1時まで
- (3) 場所 沖縄県総合運動公園 50Mプール
- (4) 受講者数 台風23号の影響で中止 24人
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
 - ・開講式
 - ・海上保安庁より安全講話
 - ・SUP・カヌー説明
 - ・実践
 - ・昼食
 - ・閉講式

①



②



- ①今年度募集チラシ
- ②申込期限直前配布チラシ

3 成果

- ・台風23号の影響により、安全を考慮し中止。

4 課題

・今年度は申込数の伸びが鈍かった。参加人数を増やすため、開催2週間前に市役所や図書館にチラシを配布し、スクリレ等を通じ学校にも周知することで参加者を集めた。

ビーチシュノーケリング

1 講座の趣旨

沖縄の自然を体験し沖縄のよさを再発見する。

サンゴの保全に関する講話や水難防止に関する講話を聴き、以後の海での活動や日常生活にいかす。

2 講座の概要

- (1) 講師 星原 貴保 氏 (株式会社 ナチュラルブルー代表)
- (2) 日時 令和7年11月8日(土曜日) 午前10時30分から午後12時まで
(午前9時30分集合)
- (3) 場所 那覇ビーチリゾート内 波の上うみそら公園
- (4) 受講者数 9人
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
- ・開講式
 - ・星原氏よりサンゴと海の安全に関する講話
 - ・シュノーケリング説明
 - ・実践
 - ・閉講式



3 成果

- ・サンゴの生態や現状の課題についてわかりやすく学ぶことができた。また、座学だけではなく実際に海に入りサンゴの実物を見ることでより身近に感じることができた。
- ・ビーチシュノーケリングを初めて体験する方が多く、海での活動時の注意点や海の生物について知ることができた。

4 課題

- ・申込者数の伸びが悪かった。参加人数を増やすため、新聞への広告掲載依頼や、市役所や図書館へのチラシの配布、スクリーン等を通じ学校にも周知することで参加者を集めた。
- ・参加者の年齢制限があり、申込受付後に65歳の方をお断りすることになってしまった。まなびネットおきなわへの投稿時だけではなく、チラシにも案内文が必要
- ・今回参加者が少なかったため、管理事務所前の休憩スペースで座学講座を行うことができたが、定員人数参加時の座学講座場所の工夫が必要。
- ・海に入る際にバディ(2人1組)を組む必要があるが、奇数人数での参加者は、他の参加者とバディになる可能性が高く、抵抗を感じる方のために、申込連絡時に、事前に案内しご理解いただいたうえで参加してもらう。

2大ヒーロー「飛び安里」「ウルトラマン」の聖地 ～花火師の安里と金城哲夫の功績をたどる～

1 講座の内容

「飛び安里」は、ライト兄弟による飛行機の発明よりも100年以上も前に、18世紀の沖縄で『人類初の飛行』を試みた人物であり、鳥の翼を模した装置を作り津嘉山から飛び立ったという伝説が残っている。「金城哲夫」は、特撮界に名を刻んだ脚本家で、「ウルトラマン」シリーズの生みの親の一人である。沖縄の自然や文化に根差した独自の感性を生かし、日本中に愛されるヒーローを生み出した。

二人のヒーローは、それぞれの時代で夢を追い求め、新たな世界を切り拓いた存在で、彼らの功績を振り返ることで南風原町の歴史と文化に迫る。

2 講座の概要

- (1) 講師 城間 良和 氏（南風原町歴史研究家）、金城 琴 氏（「松風苑」代表）
- (2) 日時 令和7年7月24日（木曜日）午後1時から午後4時まで
- (3) 場所 南風原町中央公民館、金城哲夫資料館（松風苑）
- (4) 受講者数 17人
- (5) 共催 南風原町教育委員会
- (6) プログラム
 - ・開会
 - ・講話① 城間 良和 氏
 - ・会場移動
 - ・金城哲夫資料館見学
 - ・講話② 金城 琴 氏
 - ・閉会



3 成果

- ・悪天候の中、実施可能かどうか検討した上での開催となった。参加者の足元も気になったが、参加できてよかったという多くの声をいただき、学びのある講座となった。
- ・「飛び安里」について調査資料をまとめた城間良和氏と「ウルトラマン」の生みの親である金城哲夫氏について資料館運営を続けている金城琴氏の二人の講話を通して、沖縄や世界に誇れる偉人についてこれからも語り継ぐことの大切さに改めてきづく機会になった。
- ・共催地である南風原町の御協力のおかげで、事前準備・打ち合わせから当日運営までスムーズな開催となった。

4 課題

- ・熱帯低気圧が近づく中での開催可否について判断に迷った。天気予報と交通情報にも十分に気を配った上での判断が求められるため、各関係機関や講師、会場、南風原町教育委員会との密な連携が必要だと改めて感じた。
- ・悪天候のため当日キャンセルもあった。
- ・濡れた雨具や靴等の置き場所も事前に想定しておく必要がある。

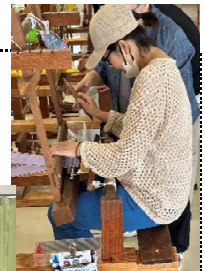
かすりロードを抜けて織物の魅力発見 ～琉球絣や南風原花織を楽しむ～

1 講座の内容

琉球かすり会館では、約500年の歴史を持つ沖縄の伝統織物「琉球絣」の歴史や技法を学び、織物産業の伝統を受け継ぐ職人の指導のもとコースター作りの体験を通して、機織りの魅力や伝統文化の奥深さに触れる。

2 講座の概要

- (1) 講師 琉球絣事業協同組合の皆様
- (2) 日時 令和7年8月23日（土曜日）午前10時から午後12時まで
- (3) 場所 琉球かすり会館
- (4) 受講者数 16人
- (5) 共催 南風原町教育委員会
- (6) プログラム
 - ・開会
 - ・南風原織物や絣の歴史や技法について（DVD視聴）及びコースター作り体験（2グループ入れ替え制）
 - ・閉会



3 成果

- ・土曜日開催にすることで、様々な受講生が参加しやすかったようである。
- ・琉球絣の歴史についての学びとコースター作り体験を取り入れたことで、参加者は学びを深めながら自分らしい作品を仕上げた満足感を得られたようである。
- ・コースター作りの体験を通して、染色技術の高さや糸をつむぐ過程の重要性、難しさを実感したという声が多く挙がった。
- ・本講座をきっかけに、南風原絣の魅力が詰まった絣ロードを歩きたいという感想も寄せられた。

4 課題

- ・夏休み期間中ということもあり親子参加を呼びかけたが、なかなか参加者が集まらなかった。また、高校野球決勝戦と重なり、キャンセルもあった。
- ・参加者を2グループに分けて入れ替え制を取ったため、当日の運営が大忙しだった。事前にコーディネーターとの役割分担をしっかりと行う。

民俗学から見た沖縄の女性像

1 講座の内容

かつて琉球の信仰には、「オナリ神」としてオナリ（女性）が、エケリ（男性）を守護してきた歴史があり、男性を精神的に守護する女性は、民間信仰においても神格化されてきた。さらに、女性は地域社会の安定や伝統文化の継承をさせる重要な役割を果たしてきた。今回、近代化やグローバル化の中で、これらの伝統的役割がどのように変化しているか探る機会とし、沖縄文化における女性の重要性を深く理解し、歴史的・民族的な視点からその価値や現代社会とのつながりを考察し、沖縄文化を深く見つめる。

2 講座の概要

- (1) 講師 赤嶺 政信 氏（琉球大学 名誉教授）
- (2) 日時 令和7年10月28日（火曜日）午前10時から午後12時まで
- (3) 場所 南風原町立中央公民館 研修室1・2
- (4) 受講者数 22名
- (5) 共催 南風原町教育委員会
- (6) プログラム
 - ・開会
 - ・講話「民俗学から見た沖縄の女性像」～女性優位と男系原理～
 - ・閉会



3 成果

- ・講座タイトルに惹かれ、関心を持って参加する方が多かった。
- ・この講座をきっかけに今後、自分の住んでいる地域についてもさらに勉強したいと意欲が高まった方が多かった。
- ・沖縄に根付く家の継承や琉球歴史にまつわるオナリ信仰について、赤嶺先生の現地聞き取り調査をもとに詳細な事実に触れる貴重な機会となった。
- ・毎回、講座の冒頭に案内しているおかげで、おきなわ県民カレッジの新規加入者が徐々に増え、今後の学ぶ意欲につながっている。

4 課題

- ・季節柄、体調不良で当日欠席する方が多かった（6名）。
- ・当日、パスポートを忘れる方がいるので、申込時に声掛けが必要である。

南風原に伝わる文化財や伝承 ～南風原町史跡巡りフィールドワーク～

1 講座の内容

ウサン嶽や御宿井など、地域の生活や信仰に密接に関わる史跡を巡りながら、南風原ならではの歴史と文化を探求する。また、現地での学芸員による解説を通して、その土地に語り継がれた伝承を学び、地域の伝統文化への理解を深める。平和を探求する文化センターを拠点としたフィールドワークを通して、歴史を学びながら地域への愛着を育み、未来へと続く平和や歴史・文化を継承する心を育む。

2 講座の概要

- (1) 講師 保久盛 陽 氏（南風原文化センター 学芸員）
- (2) 日時 令和7年11月15日（土曜日）午前9時30分から午後12時30分まで
- (3) 場所 南風原文化センター 研修室
- (4) 受講者数 21名
- (5) 共催 南風原町教育委員会
- (6) プログラム
 - ・開会
 - ・フィールドワーク「南風原町文化財巡り」
下原橋→大名ヒージャーガー→御宿井→ウガンモー公園→照屋石獅子
 - ・南風原文化センター見学
 - ・閉会



3 成果

- ・フィールドワークの内容選定、社会福祉協議会のバス借用、文化センターの施設見学等において南風原町諸関係団体の御協力のおかげで講座を開催することができた。
- ・学芸員の保久盛さんの御助言の下、南風原町内に12の字がある中、広範囲で見学ルートを設定することで、貴重なフィールドワークを行うことができた。
- ・講座を通して参加者同士がつながり、お互いの情報交換の様子が見られ、多くの学びが得られたようだ。
- ・事前連絡のおかげで、パスポート忘れや当日欠席者が無く、スムーズな運営・進行ができた。

4 課題

- ・特になし

わたしたちは、なにをやるか？ ～子どもを想い、親を想い、支援に”なる”営み～

1 講座の内容

「子どもを想う」「親を想う」、深く大切な想いを原点に、私たちが“支援をする人”というだけではなく、支援そのものに“なる”とはどういうことかを問いかける。

支援とは、何かを「してあげる」ことではなく、ともに在り、ともに笑い、ときに立ち止まりながら、少しずつ、そう“なる”もの。この営みのなかに、私たちはどんな願いを込め、どんな未来を描こうか。子どもたちの声にならない声にも耳を澄ませながら、「子育てと子育ての支援」をあらためて考える時間になりたいと思う。

2 講座の概要

- (1) 講師 新城 宗史 氏(ひらら児童館館長)
- (2) 日時 令和7年6月8日(日曜日) 午前9時15分から午前11時15分まで
- (3) 場所 宮古合同庁舎5階 研修室
- (4) 受講者数 27人
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
 - ・開講式
 - ・講座スタート
 - ・アンケート記入
 - ・閉校式



3 成果

・導入段階に4人グループでレゴを話し合いにより積み上げていく体験的活動を通して、子ども一人一人の行動や心情を捉えていく。さらに実践を踏まえ論理的に説明しながら本題に迫る。この手法は関心をもたせながら個人の経験を確認する意味でも効果があった。

【アンケートの集計より】

- ・講師(教育者)の情熱を感じました。ぜひ、多くの現場のスタッフと一緒に共有したい。
- ・子どもの育ちを考える大人としてできることないか、改めて考える機会となった。
- ・実践に基づく講話が聞けて、これまでの活動で考察したことの答え合わせになりました。

4 課題

- ・課題は特にありません。

「点字講座」 ～ビールのつぶつぶ気になったことりませんか?～

1 講座の内容

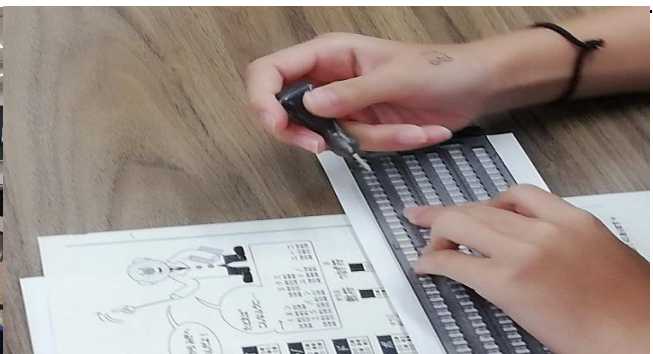
基本的な点字の組み合わせを予想したり、点字器を使用して実際に文字を入力するための方法を考えることを通して、思考を深めたり、判断を行ったり、実際に読んでみたりと表現することのよさを体験する。また、それによって障がいをもっている人たちへの理解、サポート、交流に繋がっていくことを期待する。

2 講座の概要

- (1) 講師 砂川 尚輝 氏 (沖縄県立宮古高校教諭)
- (2) 日時 令和7年7月27日(日曜日) 午後1時30分から午後3時30分まで
- (3) 場所 宮古合同庁舎5階(研修室)
- (4) 受講者数 13人
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
 - ・開講式
 - ・講座「点字」
 - ・閉講式



↑↑
点字の仕組みについて説明



↑↑
点字器を使っての入力中

3 成果

親子で点字について学習してほしく夏休み期間を踏まえて計画。参加者は隣の人と一緒に点字の成り立ち、読解、入力に真剣に取り組んでいました。

【アンケートの集計より】

- ・指で触っても点字が読めなく難しかった。視覚障がいをもっている方の変えを知った。
- ・謎解きみたいで楽しかった
- ・もっと点字について知りたい
- ・点字について詳しく知れたし、楽しく学べる講座でした。
- ・講師の伝えたい思いがしっかり伝わりました。
- ・夏休み小学生でも楽しめそうなイベントがないか探していて面白そうなので参加した。

4 課題

- ・特にありません。

「宮古の歴史講座」テーマ「取り戻せ青春！授業編 ～仲宗根豊見親を知ると見えてくる琉球の歴史～」

1 講座の内容

日本の学校の授業では「日本の歴史」や「世界の歴史」を中心に学ぶことが多く、「沖縄の歴史」や「宮古の歴史」に触れることは意外と少ない。また進学への意識の高さから、受験を重視した「暗記」や「一問一答」などの知識に偏った学習が行われてきた経緯から、在学中や卒業後も、歴史分野に対して「苦手意識」を持つ人たちも多い。しかし、歴史は「人々の営み＝人間ドラマ」であることから、そこにはドラマチックな出来事や人物伝も多く、学べば学ぶほど、新たな発見や気づきが生まれ、さらなる探求心が芽生える面白い学問である。そこで、本講座では「歴史の見方・考え方」を宮古島の英雄として名高い「仲宗根豊見親」を通して学び、今という時代を生きる「歴史の体感者」として人生における「学び続ける楽しさ」を実感してもらい、年を重ねることで見えてくる「歴史の魅力・楽しさ」を味わってほしい。

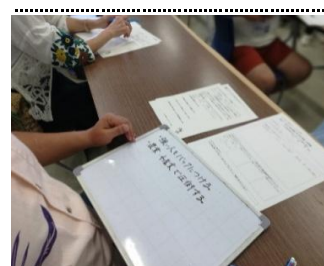
- (1) 講師 宮国 博弥 氏 (伊良部小中学校教諭)
- (2) 日時 令和7年8月17日 (日曜日) 午後1時30分から午後3時30分まで
- (3) 場所 宮古合同庁舎5階(研修室)
- (4) 受講者数 37人
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
- ・ 開講式
 - ・ 講義「宮古の歴史」
 - ・ 閉講式



↑
宮古島、八重山を統一した仲宗根豊見親は、どんな人物だったのだろうか？
授業のねらいを説明。



↑
豊見親がトップに立つためのアイデアをワークシートにそれぞれ、自分の考えを書く。



↑
各グループで話し合ったことをボードに書き、代表者が発表する。

3 成果

・知っているようで、知らなかった宮古、八重山の首領である仲宗根豊見親。大豪族となるまでの過程や人物像を授業スタイル「取り戻せ！青春」で、且つシンキングタイム(個人からグループ)を取り入れたことで、受講者の関心や意欲の活性化につながる講座構成が予想以上の成果となった。

【アンケートの集計より】

- ・ 宮古の歴史と仲宗根豊見親を自分や皆の考えをもとに楽しみながら知ることができた。
- ・ 講師がイラストや話し合いをもとに構成した内容が面白くてとてもよかった。資料もあり、講師も優しく分かりやすい説明でした。
- ・ 夏休みの自由研究で取り組めたので参加できてよかった。

4 課題

- ・ 特にありません。

碧き島の歴史～宮古島のチカラ～

1 講座の内容

故郷のいい所って何ですか？海と答える人も多いでしょう。もちろん古代より人々は、海に囲まれて島に生きてきました。宮古島、そして東シナ海に浮かぶ沖縄の島々の姿は、一頭の龍のように見えます。今回の講座は、人類学・考古学・文献暦学を横断しつつ、宮古と中山国、やがて琉球国としてひとつになり、日本となる歴史を追います。楽しい歴史、宮古島の誇りと元気ができる島の歴史話です。

2 講座の概要

- (1) 講師 賀数 仁然 氏（琉球歴史文化研究所所長）
- (2) 日時 令和7年11月29日（土曜日）午後2時30分から午後4時30分まで
- (3) 場所 宮古合同庁舎2階（講堂）
- (4) 受講者数 59人
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
 - ・開講式
 - ・講話
 - ・閉講式



課題提示：今の沖縄・昔の琉球、宮古を歴史・人物・文化から誇りを学ぶ。

3 成果

(アンケートから)

- ・評判通り、話が上手で面白く内容も具体的で大変良かった。
- ・講義内容が沖縄(琉球・宮古)の通史を通して全体が分かり、とても良かった。さらに八重山等の島々のことも学びたい。
- ・講師の知名度も高く、興味深い講座が開催できたと感じる。
- ・再度、講師招へいの要望が多く出ていた。

4 課題

- ・当日参加者の定員数増を見込んでの対応であったが、定数40名に対して参加者59名、会場の確保、机や椅子や職員の増員など考慮すべき点があった。

家庭でできる島豆腐づくり

1 講座の内容

今回の島豆腐づくりは、受講者のほとんどがはじめてのため、豆腐のつくり方を説明してからスタートした。本講座は、「家庭でできる島豆腐」をテーマにしていたため、百均等で簡単に購入できる道具を用意した。また、受講者が講座終了後に家庭でまたつくってみたいと思えるよう、極力簡単な手順で調理できるように工夫した。

調理時の混乱をなくすため、講師から事前に指導を受け、コーディネーターと担当の3名でアドバイスをしながら進めた。おかげで、ほぼ全員が上手に豆腐を完成させることができた。

2 講座の概要

- | | |
|----------|--------------------------------|
| (1)講師 | 宮良 幸男 氏 |
| (2)日時 | 令和7年9月21日（日曜日）午後1時から午後4時まで |
| (3)場所 | 県立石垣青少年の家 |
| (4)受講者数 | 22人 |
| (5)共催 | なし |
| (6)プログラム | 1 開講式
2 豆腐づくり（調理）
3 質疑応答 |



3 成果

- ・身近な食「島豆腐」のつくり方に関する講座を開催できてよかった。
- ・多くの受講者から「豆乳を使ってこんなに簡単に豆腐がつかれるとは思わなかった。」「とても楽しかった。」という感想があった。
- ・講師から事前に指導を受け3名体制で進めたため、大きな混乱もなくスムーズに進めることができた。
- ・受講者からは「自宅に帰ってまたやってみたい。」との声が寄せられた。

4 課題

- ・家庭でできるという内容だったため、豆腐づくりに必要な道具（身近なもの）を揃えるのが難しかった。
- ・前例がなかったため、試作品づくりに時間を要した。
- ・講座に申し込んだものの参加できない受講者が1名出てしまった。

立体貼り絵創作 I・II

1 講座の内容

今回、持続可能な開発目標を意味するSDGsを意識して広域学習サービス講座で取り入れた。受講者には、いつもは捨てているトイレットペーパーの芯を30個程度集めてもらい材料として準備してもらった。

講座では、準備した材料を更に5mm幅にカットし、カットした紙を組み合わせて松竹・梅の貼り絵を創作した。2日間（6時間）で完成を目指した。

2 講座の概要

- (1) 講師 宮良 祐次 氏
- (2) 日時 令和7年10月18日（土曜日）午後1時から午後4時まで
令和7年10月19日（日曜日）午後1時から午後4時まで
- (3) 場所 八重山保健所
- (4) 受講者数 17人
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
 - ・開講の挨拶
 - ・講話・実習（創作）
 - ・閉会・感想記入



3 成果

- ・普段は捨てられるトイレットペーパーの芯を活用した貼り絵創作講座を開催することができてよかった。
- ・講師の作品を鑑賞しながら、トイレットペーパーの芯で素晴らしい芸術作品が出来上がることに受講者は感動していた。
- ・ほとんどの受講者は時間内に完成することはできなかったが、宿題として完成までがんばると抱負を述べていた。
- ・次の作品に対する目標（カンムリワシ創作）を語る受講者もあり、作品創作意欲をかきたて今後の生活に活かされていくと感じた。

4 課題

- ・作品完成までの時間が足りなかった。（作業工程の一部を事前準備にすることができれば解消できる可能性がある。）
- ・初日は全員受講したが2日目は欠席者が1名いた。障害のある方と付き添い2名での参加であったが、付き添い人の都合で参加が難しくなったという申し出があった。

色鉛筆で描く島の可愛い生き物たちのイラスト

1 講座の内容

本講座は、講師が用意したイラスト（下絵）に受講者が思い思いの感性で彩色をしていく内容であった。講座初めに講師による作品紹介があり、受講生は鑑賞しながらイメージを膨らませていた。作業は、講師が各受講者をまわりながら、丁寧に彩色のポイントをアドバイスしてまわった。講師指定の36色の色鉛筆と受講者が自宅から持参した色鉛筆を併用することで、深みのある色合いを表現していた。

2 講座の概要

- (1) 講師 笠原 利香 氏
- (2) 日時 令和7年11月16日（日曜日）午後1時から午後4時まで
- (3) 場所 八重山教育事務所
- (4) 受講者数 28人
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
 - ・開講の挨拶
 - ・講話・実習（創作）
 - ・閉会・感想記入



3 成果

- ・講座内容が「色鉛筆で描く島の可愛い生き物たちのイラスト」ということで、受講者層が8才から70代と幅広い年齢の方に参加していただいた。
- ・受講者は重ね塗りをすることで深みの増す塗り絵作業の奥深さに感動していた。
- ・36色の色鉛筆を準備することで、受講者の個性がにじみ出る作品ができていた。受講者もできあがった作品に満足した表情であった。受講生の満足した表情とアンケートの結果から、今回の講座が広域学習サービス講座として十分役割を果たしたように思う。
- ・今後も自分自身の創作活動として継続するとアンケートに書いている受講者が多くいた。

4 課題

- ・受講料が2600円（36色の色鉛筆が高価）と少し高額だったため、一部の受講者から受講料が気になるという声があった。

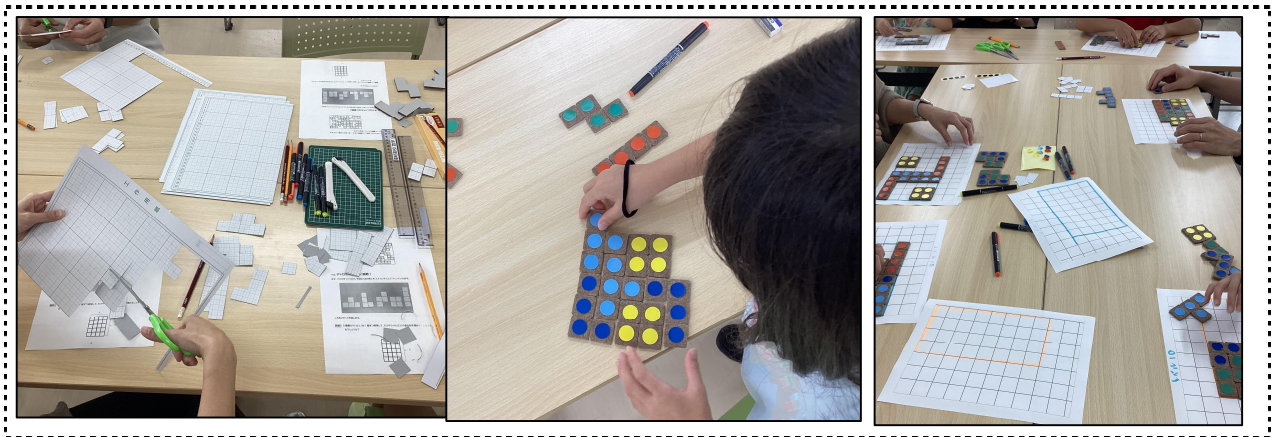
パズルで数学 「テトロミノでピタッとパズル！」

1 講座の内容

いくつかの同じ大きさの正方形を辺と辺をつなげてできる形を「ポリオミノ」といいます。例えば、正方形が1つだけの形は「モノミノ」、2つつながげた形は「ドミノ」と呼ばれます。この学習では、特に4つの正方形をつなげた形「テトロミノ」に注目します。5種類のテトロミノを組み合わせて、長方形などの図形を埋めていくパズルを中心に取り組みます。

2 講座の概要

- (1) 講師 比嘉 辰美 (沖縄県立陽明高等学校教諭)
- (2) 日時 令和7年11月8日(土曜日)午前10時から午後12時まで
- (3) 場所 沖縄県立陽明高等学校
- (4) 受講者数 6人
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
 - ・はじめに
 - ・説明と作業
 - ・まとめ



3 成果

- ・幼稚園生から一般まで、一緒に取り組むことができた。
- ・図形の面積や対称性について紹介することができた。
- ・テトロミノを埋める長方形の形(枠)によって難易度が変化し、さらに同年代の子どもが複数いたことで、互いに刺激し合いながら意欲を高めて取り組むことができた。
- ・最後には、5種類のテトロミノをもとにオリジナルの形(枠)を考えて問題を作成したり互いにその問題を解き合ったりすることができた。

4 課題

- ・講座の周知方法

首里高等学校 染織デザイン科 2025年度 体験学習

1 講座の内容

現中学3年生対象の体験学習。

3つのグループに分かれ、染織デザイン科の授業内容、実習内容を体験する。

内容：①紅型染めによるトートバッグ制作。

②平織りによるコースター制作。

③ドローソフト(illustrator)によるかりゆしウェアデザイン画制作。

2 講座の概要

- | | |
|-----------|---|
| (1) 講師 | 保久村旭克(教諭) 山田亜由美(教諭) 金城麻(教諭) 棚原亜由美(教諭)
宮城良美(教諭) 佐藤利枝(教諭) 目取眞道代(実習助手) 仲眞良秀(実習助手) |
| (2) 日時 | 令和7年7月23日(水曜日) 午前10時から午後12時まで |
| (3) 場所 | 首里高等学校染織デザイン科①染め室、②織り室、③パソコン室 |
| (4) 受講者数 | 61人 |
| (5) 共催 | なし |
| (6) プログラム | <ul style="list-style-type: none"> ・開講式 ・染織デザイン科の説明 ・体験学習 ・見学 ・閉講式 |



3 成果

- ・県内随一である染織デザイン科の魅力や沖縄の伝統工芸の奥深さを伝えることが出来た。
- ・これから控えている高校受験の進路選択の一つを与えることが出来た。
- ・講師である先生方から指導を受けることで、実際の授業のイメージや、体験学習をサポートしてくれた現役高校生とも関わることで、高校生活を追体験させることが出来た。
- ・受講生である中学生の実態を知ることが出来た。

4 課題

- ・予定の集合時間より早く来すぎる受講生が多く、結果として開講式までだいぶ待たせてしまうことになった。集合時間の周知徹底が必要。
- ・日にちを間違え、翌日に来た受講生が1人がいた。その子に対しては科の説明や見学などで対応したが、開催期間の周知徹底が必要。

中学生のための簿記基礎講座

1 講座の内容

中学校において学習指導要領(社会編)では「企業会計」や「会計情報の活用」の学習が求められている。そこで、高等学校における商業教育の簿記学習を通して、経済社会における企業会計を学ぶ必要性を理解させ、将来の職業選択の一助として講座を開設する。

2 講座の概要

- (1) 講師 本校職員 木村 紀子 他(実施計画書通り)
- (2) 日時 令和7年8月18日(月曜日)から8月22日(金曜日)までの5日間
各日午前9時から午後12時まで
- (3) 場所 本校 2-5教室
- (4) 受講者数 15人
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム 授業形式の一斉講座



3 成果

参加してくれた中学生はみんなやる気を持って真面目に学習活動に取り組んだ。学習範囲が高校1年1学期で履修する内容で、それを今回の15時間で習得するのは難しいことである。しかし、生徒の真剣に学習に取り組む姿勢や指導教諭をサポートする教諭も2名いたことから、予定していた学習内容を終えることができ、ねらいである簿記(企業会計)とはどのようなものか、を理解することができたと思える。また、希望する中学生には簿記検定初級の受験をさせた。今回の講座が、参加した中学生の将来の職業選択として生きてくれることを期待したい。

4 課題

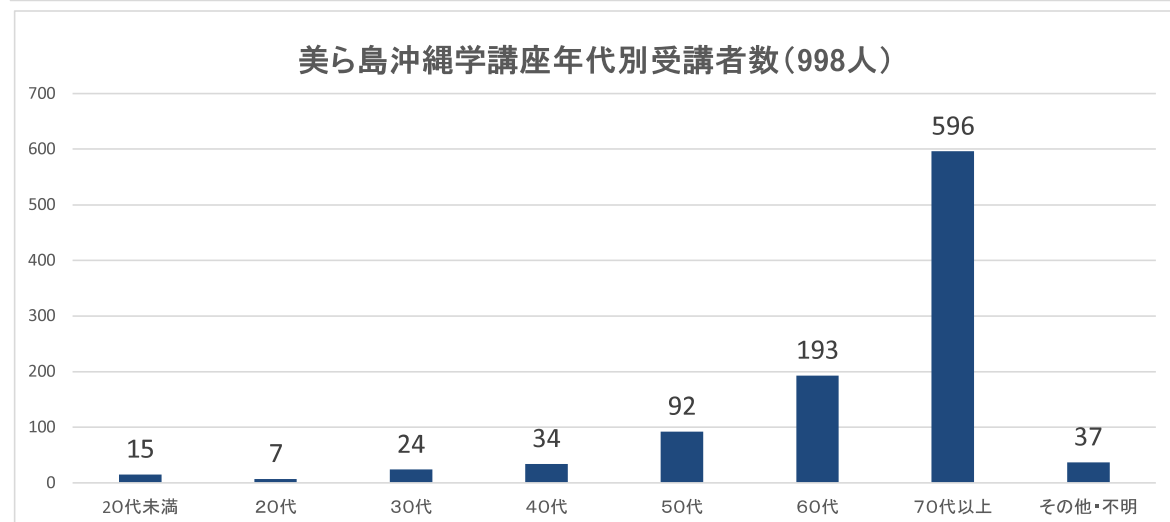
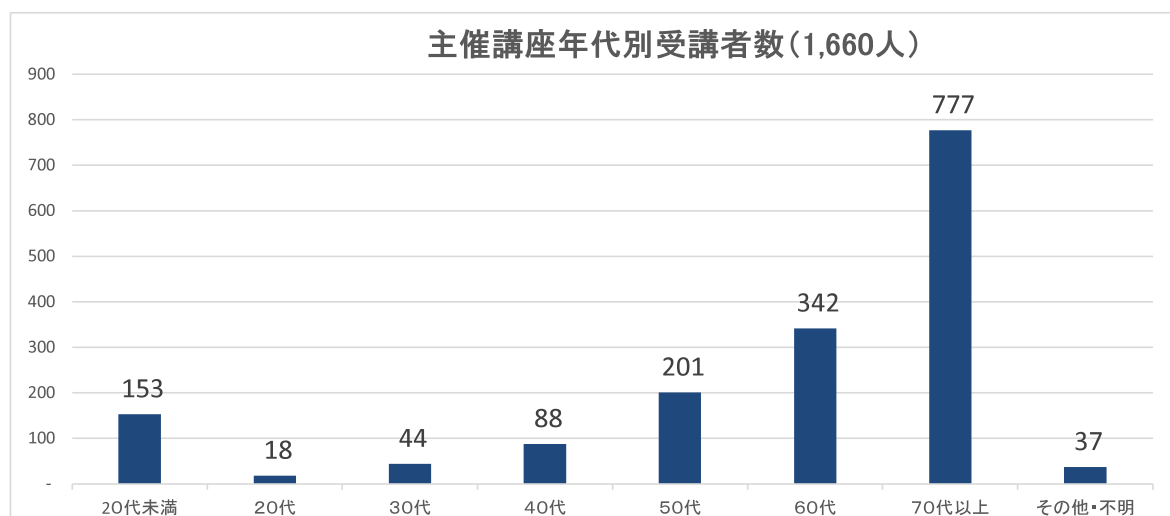
夏休み後半の期間(5日間)を活用して講座を設けたが、中学校によっては2学期スタートがこの期間途中から始まる学校もあり、数名の中学生が講座を最後まで受講することができなかった。講座終了後は検定に合格するくらいの知識を習得してほしいと考えていたので、全講座を終えることが出来なかった中学生には申し訳なく思う。次回に実施するならば、8月上旬の時期を検討したい。また、学習内容が難しいので、授業内容をより分かりやすく工夫して講座展開に臨みたい。

3 主催講座受講生アンケートから

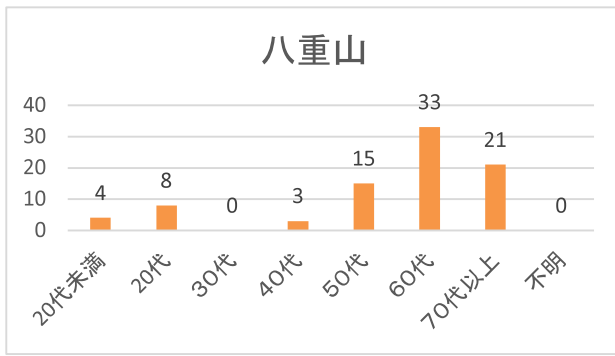
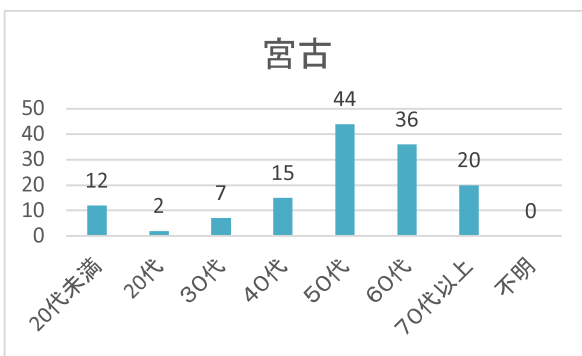
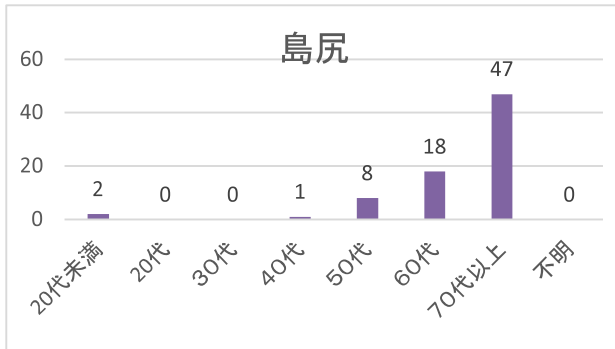
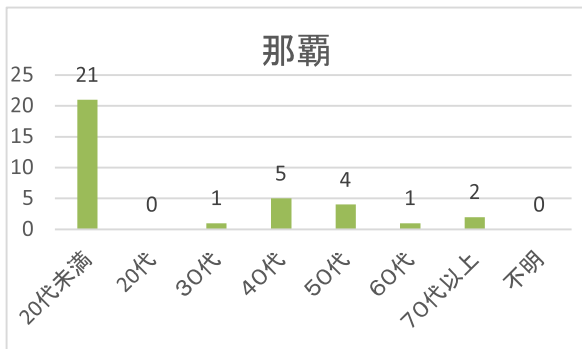
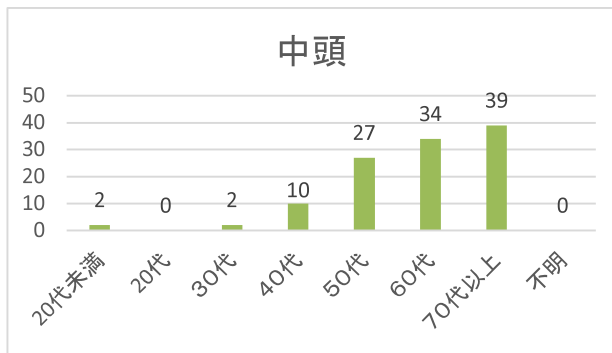
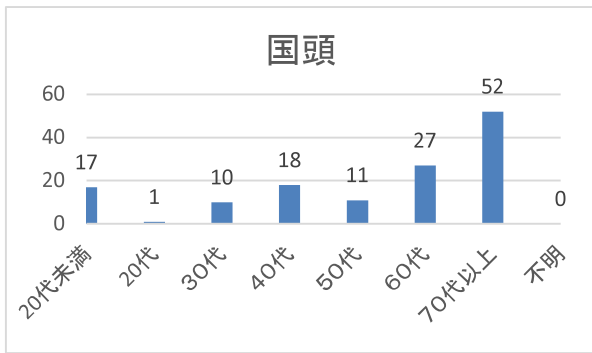
(1) 主催講座受講生の状況

① 主催講座受講者数と年代別分布

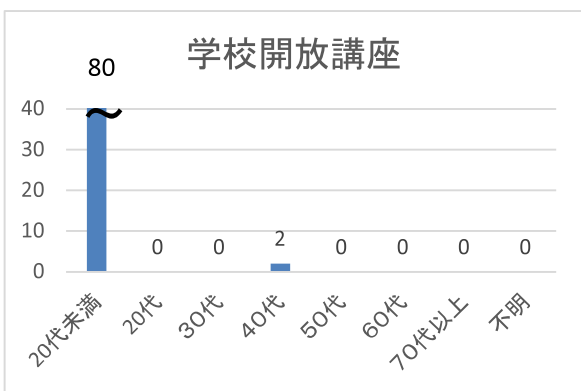
令和7年度	美ら島沖縄学講座	広域学習サービス講座							学校開放講座	合計
	センター	計	国頭	中頭	那覇	島尻	宮古	八重山		
20代未満	15	58	17	2	21	2	12	4	80	153
20代	7	11	1	-	-	-	2	8	-	18
30代	24	20	10	2	1	-	7	-	-	44
40代	34	52	18	10	5	1	15	3	2	88
50代	92	109	11	27	4	8	44	15	-	201
60代	193	149	27	34	1	18	36	33	-	342
70代以上	596	181	52	39	2	47	20	21	-	777
その他・不明	37	-	-	-	-	-	-	-	-	37
計	998	580	136	114	34	76	136	84	82	1,660



② 広域学習サービス講座 年代別受講者数（教育事務所別）



③ 学校開放講座 年代別受講者数



③-2 学校開放講座 市町村別受講者数

	計	陽明高校	首里高校	那覇商業高校
宜野湾市	3	-	3	-
中城村	1	-	1	-
西原町	2	2	-	-
浦添市	18	3	12	3
那覇市	46	1	35	10
豊見城市	4	-	4	-
糸満市	3	-	2	1
八重瀬町	2	-	1	1
与那原町	1	-	1	-
南風原町	1	-	1	-
不明	1	-	1	-
合計	82	6	61	15

④ 主催講座受講者数(市町村別)

令和7年度	美ら島沖縄学講座	広域学習サービス講座							学校開放講座	合計
	センター	計	国頭	中頭	那覇	島尻	宮古	八重山		
国頭村	2	1	1	-	-	-	-	-	-	3
大宜味村	-	15	15	-	-	-	-	-	-	15
東村	4	-	-	-	-	-	-	-	-	4
今帰仁村	3	13	13	-	-	-	-	-	-	16
本部町	13	14	11	1	2	-	-	-	-	27
名護市	35	65	61	2	2	-	-	-	-	100
宜野座村	1	6	6	-	-	-	-	-	-	7
金武町	-	2	-	2	-	-	-	-	-	2
伊江村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伊平屋村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伊是名村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
恩納村	1	1	-	1	-	-	-	-	-	2
うるま市	66	23	2	17	-	4	-	-	-	89
読谷村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
嘉手納町	1	1	-	1	-	-	-	-	-	2
沖縄市	49	25	2	23	-	-	-	-	-	74
北谷町	8	13	6	7	-	-	-	-	-	21
宜野湾市	35	8	-	8	-	-	-	-	3	46
北中城村	15	11	-	9	-	2	-	-	-	26
中城村	9	7	-	3	3	1	-	-	1	17
西原町	14	9	4	4	-	1	-	-	2	25
浦添市	86	6	-	4	-	2	-	-	18	110
那覇市	334	60	6	18	24	12	-	-	46	440
久米島町	3	-	-	-	-	-	-	-	-	3
南大東村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北大東村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
豊見城市	14	8	2	1	2	3	-	-	4	26
糸満市	31	19	-	3	-	16	-	-	3	53
八重瀬町	19	9	1	-	-	8	-	-	2	30
南城市	38	14	-	7	-	7	-	-	-	52
与那原町	11	4	3	1	-	-	-	-	1	16
南風原町	13	23	2	1	-	20	-	-	1	37
渡嘉敷村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
座間味村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栗国村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
渡名喜村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮古島市	39	136	-	-	-	-	136	-	-	175
多良間村	21	-	-	-	-	-	-	-	-	21
石垣市	92	85	-	-	1	-	-	84	-	177
竹富町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
与那国町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	41	2	1	1	-	-	-	-	1	44
計	998	580	136	114	34	76	136	84	82	1,660

(2) 講座を受けた動機

①美ら島沖縄学講座

第1回講座【祈りと近世琉球の再興～羽地朝秀の苦悩～(ライブ配信)】

- ・琉球史に興味があるから。
- ・講師(賀数仁然氏)の話を知りたいから。
- ・羽地朝秀に興味があるから。
- ・県民カレッジの講座だから。
- ・生涯学習(知識を得る、後学のため)として。

第2回講座【おもろ鑑賞講座vol.2(ライブ配信)】

- ・おもろさうしに興味があった。
- ・沖縄の歴史に関心があり、おもろさうしにも触れてみたかった。
- ・知識の向上を図りたい。
- ・以前に講師(波照間永吉氏)の話を知っていて面白かったから。
- ・現在勉強中のことを深めるため、おもろさうしの知識も得たかった。

第3回講座【憐れみ・身命・陰徳の琉球史-琉球人のく生き方を探る(Ⅱ)-(ライブ配信)】

- ・講座名(タイトル)に興味があった。
- ・琉球史に関心があった。
- ・沖縄の歴史、文化を学ぶため。
- ・昨年度も講義を受講し、面白かったから。
- ・沖縄について何でも学びたい。

第4回講座【ヤンバルクイナたちは今～やんばるの奇跡の森にすむオンリーワンな生き物たち～】

- ・講座名(タイトル)に興味があった。
- ・やんばるの現状を知りたくて。
- ・親や友人に誘われて。
- ・沖縄の動植物に興味がある。
- ・ヤンバルクイナが好き。

第5回講座【沖縄の生活文化にある「そなえ」を見直す(ライブ配信)】

- ・講座名(タイトル)に興味があった。
- ・最近、災害が多いので勉強が必要と思った。
- ・災害に備える保存食に興味があった。
- ・県民カレッジの講座だから。
- ・ためになりそうだから。

第6回講座【「発掘調査で見つかった沖縄戦の痕跡」

「文化財としての戦争遺跡－第32軍司令部壕の調査成果を中心に－」

- ・講座名(タイトル)に興味があった。
- ・戦後80年の節目で沖縄戦について勉強したいと思った。
- ・平和ガイドをしていて知識を深めたいと思った。
- ・県民カレッジの主催講座だから。
- ・発掘調査(埋蔵文化財調査)に興味がある。

第7回講座【首里城復興について】

- ・首里城復興に興味・関心があった。
- ・首里城の現在の復興状況を知りたかった。
- ・首里城や琉球の歴史に関心がある。
- ・沖縄県民として首里城をもっと知っておきたい。
- ・他県からの来客を案内することがあるので勉強したかった。

第8回講座【沖縄の食文化 ～琉球料理の魅力～(ライブ配信)】

- ・琉球料理に関心がある。
- ・沖縄の食文化に興味がある。
- ・琉球料理を深く学びたい(伝承していく方法を学びたい)。
- ・専門的な立場である講師(伊是名カエ氏)の話を知りたい。
- ・健康と琉球料理の関係を学びたい。

第9回講座【沖縄芝居一鑑賞のご案内】

- ・沖縄芝居に興味、関心があった。
- ・沖縄の芸能に関心がある。
- ・沖縄の文化の一つである沖縄芝居を学びたい。
- ・昔、テレビや劇場等で沖縄芝居を見る機会があったが少なくなったので懐かしく鑑賞したくなった。
- ・講師(金城真次氏)の話を知りたいと思った。

第10回講座【返還文化財と御後絵】

- ・御後絵に興味・関心がある。
- ・文化財の返還に関して専門家の話を知りたかった。
- ・新聞やマスコミで取り上げられているので、実際どのように返還されたか知りたかった。
- ・沖縄の文化財に興味がある。
- ・沖縄の文化芸術、歴史全般に興味がある。

第11回講座【沖縄の地域経済について考える(ライブ配信)】

- ・沖縄の経済に興味・関心があった。
- ・講座名(タイトル)に興味があった。
- ・沖縄の中小企業の現状を知りたかった(経営状況や雇用状況)。
- ・承継問題が身近な事だから。
- ・これまでと違った分野の内容だったから。

②広域学習サービス講座

国頭教育事務所【やんばるの地で学び、豊かな未来創造へ繋げよう！】

- ・戦争体験者が少なくなっている今、私たちが戦争を知り後世に伝えていく事は大事と思ったから。
- ・やんばるの沖縄戦の”子どもたち”(護郷隊)というテーマで話を聞く機会が殆どなかったから。
- ・仏壇、ヒヌカンを任されたが、自己流なので正しく、詳しく知って伝えていきたいと思った。
- ・日頃、しきたり等疑問に思っていることを解決したいと思ったから。
- ・「アーユルヴェーダ」にも興味があり、今回はスパイスを使った料理を学びたかった。
- ・以前から新聞や広報誌などで講師(知念伽央梨氏)を知っていて憧れていた。
- ・子どもにいろんなスポーツを体験してほしい。運動能力が気になり、運動神経に不安があったから。

中頭教育事務所【近くにあった！琉球の魅力再発見】

- ・琉球料理、薬膳に興味があった。
- ・講師(宮國由紀江氏)の講座を受けたかった。
- ・健康や生活改善のため食について興味があるから。
- ・沖縄の歴史や文化に興味関心がある。
- ・中村家住宅のことを以前から学びたかった。
- ・以前から沖縄の湧き水に興味があった。
- ・フィールドワークが好きだから。

那覇教育事務所【沖縄の文化・自然を体験し、楽しく安全に学ぼう】

- ・ 県立博物館・美術館のバックヤードを見てみたかったから。
- ・ 家族に誘われたから。
- ・ 美術館や博物館の仕事に興味があったから。
- ・ シュノーケリングを学んでみたかったから。
- ・ 海で泳ぐことが好きだから。
- ・ 講座内容が楽しそうだったから。

島尻教育事務所【「島尻はひとつ」魅力ある地域の再発見】

- ・ 飛び安里、ウルトラマンについて新情報があるかもしれないと思ったから。
- ・ 金城哲夫氏は南風原町の誇りであり、一度資料館に行きたかったから。
- ・ 琉球餅を織るという体験は初めてだったから。
- ・ 南風原町の伝統文化に触れたかったから。
- ・ 琉球王国時代、女性の社会的地位が知りたかったから。
- ・ 民俗学に興味があったから。

宮古教育事務所【みんなにとって住み続けられるまちづくりをめざして】

- ・ 講座名(テーマ)「私たちは、何をするか？ 支援になる営み」に関心があったから。
- ・ 講師(新城宗史氏)の評判や人柄に関心があり、お会いし話を聞きたいと思った。
- ・ 家庭環境の多様化もあり、少しでも現場において役立てていきたいと思った。
- ・ 点字に興味があったから。
- ・ 宮古の歴史に興味があったから。
- ・ 講師(賀数仁然氏)をテレビ番組や著書などでよく知っており、直接講話が聞きたかった。

八重山教育事務所【「家庭でできる豆腐作り」と「立体貼り絵とケント紙イラスト」にチャレンジ】

- ・ 豆腐づくりに興味・関心があった。
- ・ 講師(宮良幸男氏)の講座を受けてみたかった。
- ・ クラフトに興味・関心があった。
- ・ 不器用なので挑戦しようと思った。
- ・ 講師(笠原利香氏)の絵に興味があったから。
- ・ おきなわ県民カレッジの講座が楽しいから。

③学校開放講座

陽明高等学校【パズルで数学「テトロミノでピタッとパズル！」】

- ・ パズルに興味があったから。
- ・ 講座内容が楽しそうだったから。
- ・ 親の勧めがあったから。

首里高等学校【首里高等学校 染色デザイン科2025年度 体験学習】

- ・ 学校や科の特色や雰囲気を知るため。
- ・ 伝統工芸に興味がある。
- ・ 今後の進路選択のため。

那覇商業高等学校【中学生のための簿記基礎講座】

- ・ 商業高校でどのようなことを学ぶが知りたかったから。
- ・ 簿記に興味があつて学びたかったから。
- ・ 税に関する仕事に就きたい、お金について勉強したかった。

(3) 今後学習したいこと

① 美ら島沖縄学講座

- ・ 琉球史、沖縄の近代史について。
- ・ 沖縄の偉人について。
- ・ 古文書に関すること。
- ・ 文学(おもろそうし 古典文学 古文書 琉球漢詩)
- ・ しまくとぅばについて。
- ・ 琉球国時代の庶民の生活様式や思想について。
- ・ 可視化できない琉球の先人たちの思想史や哲学、世界観等
- ・ 琉球の食文化、琉球料理について。基本を学ぶ調理実習など。
- ・ 島野菜や薬草の栄養や効能、栽培方法について。
- ・ やんばるの自然についてもっと深く学びたい。
- ・ 沖縄の自然を守るためにできることを学びたい。
- ・ 沖縄の動植物全般について。
- ・ 沖縄の生物と気候変動
- ・ 他の面から学ぶ防災・減災について。
- ・ 非常食について学んだことを踏まえてさらに深く学びたい。
- ・ 発掘現場での現地説明会に参加したい。
- ・ 沖縄戦について。
- ・ 戦後の沖縄、アメリカ占領下の沖縄について。
- ・ 首里城正殿の完成時に見学をしたい。
- ・ 県内の他の世界遺産見学等フィールドワークに参加したい。
- ・ 古典芸能について。
- ・ 組踊や芝居の鑑賞
- ・ 空手について。
- ・ 自然科学、地理、地質、気候問題
- ・ 沖縄の経済とその未来について。
- ・ 沖縄の産業について。

② 広域学習サービス講座

国頭教育事務所【やんばるの地で学び、豊かな未来創造へ繋げよう！】

- ・ 沖縄戦の実相(正しい歴史・情報・事実)を、もっと深く学びたいので、講座を継続開催してほしい。
- ・ 沖縄の歴史・自然・文化・芸能・うちなーぐちについて学びたい。
- ・ 本土復帰前と復帰後の沖縄の変化を年代別に知りたい。やんばるの歴史について。
- ・ 沖縄のしきたりにについて、正しく話せるように継続して学習したい。
- ・ 沖縄の食材を使った「アーユルヴェーダ」の料理を知りたい。
- ・ 沖縄の食材のみで合理的な栄養学、沖縄の花材のみを使った生け花等を教わりたい。
- ・ 幼児教育、野外活動について。

中頭教育事務所【近くにあった！琉球の魅力再発見】

- ・ 琉球の食と健康について学びを深めたい。
- ・ 沖縄県民の健康と長寿について。
- ・ 沖縄の歴史と文化について。
- ・ 信仰なども学べるフィールドワーク
- ・ 沖縄の史跡、城について。
- ・ 沖縄の他の地域の湧き水について。

那覇教育事務所【沖縄の文化・自然を体験し、楽しく安全に学ぼう】

- ・ パソコン講座(プログラミング・AI等)
- ・ 料理講座(琉球料理や伝統料理、昔の料理等)
- ・ 沖縄のことについて(首里城復興・沖縄の島の成り立ち・沖縄の植物等)。
- ・ マリンスポーツ講座(SUP・ボディーボード)
- ・ サンゴを含む亀や魚などの海の生き物に関すること。
- ・ キャンプについて。

島尻教育事務所【「島尻はひとつ」魅力ある地域の再発見】

- ・ 各地の伝統・文化・偉人等について。
- ・ 染物・染色について。
- ・ 城跡・文化財巡り。
- ・ トートナーについて。
- ・ 地域の史跡・歴史を学習できるもの(フィールドワーク・座学)。
- ・ 沖縄の文化芸能について。

宮古教育事務所【みんなにとって住み続けられるまちづくりをめざして】

- ・ 宮古島の保育の実情や今後の施策などを学びたい。
- ・ 子どもの発達や支援の仕方を学びたい。
- ・ 身の回りの商品やユニバーサルデザインについて。
- ・ 水、ゴミなど環境について。
- ・ 宮古の歴史(祭祀・人物・城など)を知りたい。
- ・ 沖縄本島と離島(宮古・多良間・石垣など)の関連した歴史を知りたい。

八重山教育事務所【「家庭でできる豆腐作り」と「立体貼り絵とケント紙イラスト」にチャレンジ】

- ・ 石垣島の史跡めぐり(フィールドワーク)
- ・ 料理講座(そば、味噌、豆腐等)
- ・ エッセイ教室(和歌)
- ・ 絵(貼り絵、切り絵、イラスト等)
- ・ 陶芸、三線、刺繍、書道等

③学校開放講座

陽明高等学校【パズルで数学「テトロミノでピタッとパズル！」】

- ・ 数学的な証明・論理について。
- ・ 図形や計算について。
- ・ めいろについて。

首里高等学校【首里高等学校 染色デザイン科2025年度 体験学習】

- ・ 伝統工芸に関する技術的なこと(染めや織りに関すること)。
- ・ デザインに関すること(沖縄の伝統工芸以外)。
- ・ デッサンやイラストについて学びたい。

那覇商業高等学校【中学生のための簿記基礎講座】

- ・ 日商簿記の1級・2級まで勉強したい。
- ・ 簿記の学習を継続していきたい。
- ・ 会社の経営、お金について。

4 おきなわ県民カレッジ機関別連携講座数

		令和6年度	令和7年度
合計(+220講座)		1,811講座	2,031講座
番号	講座実施団体	講座数	講座数
国・県関係機関(+8講座)		262	270
1	国立沖縄青少年交流の家	6	4
2	沖縄県立名護青少年の家	11	14
3	沖縄県立糸満青少年の家	-	3
4	沖縄県立石川青少年の家	2	7
5	沖縄県立玉城青少年の家	14	-
6	沖縄県立石垣青少年の家	-	-
7	沖縄県立宮古青少年の家	8	-
8	国立劇場おきなわ	5	5
9	沖縄県立博物館・美術館	36	43
10	沖縄県立埋蔵文化財センター	7	7
11	沖縄県立図書館	2	3
12	沖縄県総合運動公園	102	103
13	沖縄県社会福祉協議会 沖縄県介護実習・普及センター	11	11
14	沖縄県社会福祉協議会 いきいき長寿センター	51	50
15	沖縄県平和祈念資料館	1	10
17	沖縄県生活福祉部障害福祉課	3	3
18	沖縄県生活福祉部地域保健課	-	2
19	沖縄県文化観光スポーツ部 空手振興課	-	4
20	沖縄県金融広報委員会事務局	-	1
21	沖縄県立芸術大学	3	
R7から高等教育機関としてカウントする。			
市町村関係機関(+71講座)		385	456
1	沖縄市立中央公民館	19	-
2	うるま市生涯学習文化振興センター(ゆらてく)	-	20
3	ちやたんニライセンター生涯学習プラザ	18	19
4	宜野湾市立博物館	16	18
5	宜野湾市文化課	7	5
6	宜野湾市中央公民館	9	11
7	宜野湾市介護長寿課(はごろも長寿大学)	-	12
8	浦添市美術館	13	
9	浦添市教育委員会 文化財課	6	8
10	浦添市立図書館	3	2
11	浦添市てだこ学園大学院	90	93
12	那覇市立壺屋焼物博物館	7	4
13	那覇市教育委員会 生涯学習課(那覇市分を取りまとめ)	147	182
14	糸満生涯学習支援センター	33	41
15	石垣市教育委員会いきいき学び課	17	13
16	宮古島市社会福祉協議会	-	28
高等教育機関等(+25講座)		169	194
1	琉球大学	128	127
2	沖縄国際大学	10	10
3	名城大学	9	17
4	沖縄大学	11	11
5	沖縄県立看護大学(沖縄高齢者ケア研究会)	11	11
6	沖縄県立芸術大学(芸術文化研究所・全学教育センター)	-	18
各種関係機関等(+116講座)		995	1111
1	やんばるシニア大学	-	5
	(一財)沖縄美ら島財団	4	-
2	県立博物館友の会	2	2
3	タイムスカルチャースクール	-	168
4	沖縄文化健康センター ペアール沖縄・タビック	64	-
5	ウエル・カルチャースクール	916	928
7	公益社団法人沖縄被害者支援ゆいセンター	1	-
8	古都首里探訪会	4	4
9	沖縄の歴史と文化を学ぶ会	3	2
12	首里大学(首里振興会)	1	1
12	株式会社 ナラティブ	-	1

おきなわ県民カレッジ開設要綱

平成17年3月11日知事決裁

(目的)

第1条 県民の多様化・高度化する学習ニーズに対応するため、県内の生涯学習関連機関が実施している講座等を総合的に体系化し、県民に生涯学習の機会を効果的に提供するとともに、学んだことを評価・活用する「おきなわ県民カレッジ」（以下「県民カレッジ」という。）を開設する。

(運営主体)

第2条 運営主体は、沖縄県教育委員会とする。

(講座の種別)

第3条 県民カレッジは、次の講座を開設する。

- (1) 主催講座
- (2) 連携講座
- 2 主催講座は、沖縄県教育委員会が主催する講座で広域学習サービス講座、学校開放講座及び美ら島沖縄学講座とする。
 - (1) 広域学習サービス講座は、各教育事務所単位で実施するものとする。
 - (2) 学校開放講座は高等学校（県立盲、ろう、特別支援学校の高等部を含む）、専修学校及び各種学校の施設、設備、人材を活用して実施するものとする。
 - (3) 美ら島沖縄学講座は沖縄県教育庁生涯学習振興課が企画する講座、講演、シンポジウム等とする。
- 3 連携講座は、国、県、市町村、高等教育機関、各種関係機関等が実施し、沖縄県教育委員会が認めるものとする。
- 4 講座の実施に関し、必要な事項は別に定める。

(受講資格)

第4条 受講者は主として沖縄県内に居住する者とする。ただし、連携講座については第3条第3項の規定する機関が定める。

(学長等)

第5条 県民カレッジに学長及び副学長を置く。

- 2 学長は、知事をもって充てる。
- 3 副学長は、教育長をもって充てる。

(運営委員会)

第6条 県民カレッジの運営に関する重要な事項について、有識者の意見を聴取するため、運営委員会を置く。

- 2 運営委員会は10名以内をもって組織し、委員は学長が選任する。
- 3 運営委員会に関し、必要な事項は別に定める。

(事務局)

第7条 県民カレッジの事務を処理するために事務局を沖縄県教育庁生涯学習振興課に置く。

- 2 事務局長は、沖縄県教育庁生涯学習振興課課長をもって充てる。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、県民カレッジの運営に関し必要な事項は別に定める。

(附則)

この要綱は、平成17年4月1日から施行する。

この要綱は、平成19年5月14日から施行する。

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

おきなわ県民カレッジ主催講座実施要項

平成17年 4月28日
教育長 決 裁

(目的)

第1条 おきなわ県民カレッジ開設要綱第3条第4項の規定に基づき、おきなわ県民カレッジ主催講座（以下「主催講座」という。）の実施に関し必要な事項を定める。

(実施機関)

第2条 主催講座の実施機関は、次のとおりとする。

- (1) 美ら島沖縄学講座は、おきなわ県民カレッジ事務局（沖縄県教育庁生涯学習振興課。以下「事務局」という。）が実施する。
- (2) 広域学習サービス講座は、各教育事務所が実施する。
- (3) 学校開放講座は、県立学校（県立盲、ろう、特別支援学校の高等部を含む）、専修学校及び各種学校が実施する。

(実施計画書等の提出)

第3条 実施を希望する機関は、おきなわ県民カレッジ主催講座実施計画書（様式1）とおきなわ県民カレッジ主催講座事業費見積書（様式2）を事務局に提出するものとする。

(実施機関の決定)

第4条 おきなわ県民カレッジ学長（沖縄県知事。以下「学長」という。）は、前条の実施計画書等の内容等を審査し、実施機関を決定する。

2 前項により、学長は決定の通知を行うとともに、必要に応じて委託業務契約を締結する。

(受講者)

第5条 受講者は、主として県内に居住する者とする。

(受講者の募集及び決定)

第6条 受講者の募集及び決定は、実施機関の長が行う。

(修了証の授与)

第7条 総時間の7割以上の出席者に修了証を授与することができる。

(講師)

第8条 講師は、学長が委嘱する。

2 学校開放講座の講師は、原則として実施機関である学校の教職員とする。ただし、学習の内容により外部講師を依頼することができる。

(経費の負担)

第9条 事業に必要な経費は、事務局が負担する。ただし、受講者に直接還元される教材費等は、受講者の負担とする。

- (1) 事務局は、教育事務所及び県立学校に対して、予算の範囲内で講座実施に必要な経費を令達するものとする。
- (2) 学長は私立高等学校、専修学校及び各種学校に対して、おきなわ県民カレッジ主催講座委託業務契約書に基づき必要な経費を支出するものとする。

(事業報告書)

第10条 実施機関は、おきなわ県民カレッジ主催講座事業実績報告書（様式3）、おきなわ県民カレッジ主催講座集計表（様式4）及びおきなわ県民カレッジ主催講座事業精算書（様式5）を講

座終了後30日以内に作成し、学長に提出しなければならない。

(受講者の責任)

第11条 講座の受講者は、受講に際し、実施機関の施設又は設備に損害を生じさせた場合には、その損害を賠償するものとする。ただし、学長がやむを得ない理由があると認めた場合は、賠償額を減額し、又は免除することができる。

(実施上の事務)

第12条 この講座の実施に関する事務は、事務局が処理する。

(補則)

第13条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附則

- 1 この要項は、平成17年4月28日から施行する。
- 2 沖縄県広域学習サービス体制整備事業実施要綱（平成14年3月27日教育長決裁）、沖縄県広域学習サービス事業開設要項（平成10年7月30日教育長決裁）及び沖縄県学校開放講座実施要綱（平成6年6月1日教育長決裁）は、廃止する。
- 3 この要項は、平成20年4月1日から施行する。
- 4 この要項は、平成24年4月13日から施行する。

おきなわ県民カレッジ連携講座実施要項

平成17年4月28日
教 育 長 決 裁

(目的)

第1条 おきなわ県民カレッジ開設要綱第3条第4項の規定に基づき、おきなわ県民カレッジ連携講座(以下「連携講座」という。)の実施に関し、必要な事項を定める。

(実施機関)

第2条 連携講座を主催する機関は、国、県、市町村、高等教育機関、各種関係団体等の機関とする。

(講座)

第3条 連携講座は、県民に対して開かれた生涯学習に関する講座とする。次の各号に該当する講座は、連携講座として承認しないものとする。

- (1) 県及び主催団体職員のみを対象とした職務上の講習会や研修会
- (2) 特定の宗教や政治思想の普及を目的とした講習会や研修会
- (3) その他沖縄県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)が、不相当と認めたもの

2 連携講座の主催者は、連携講座の表示をするものとする。

3 講座は、おきなわ県民カレッジ運営要項第9条第1項第2号に定める講座体系に分類するものとする。

(申請等)

第4条 連携講座の主催者は、おきなわ県民カレッジ連携講座申請書(様式1)により教育長に申請する。

2 教育長は、前項の申請書に基づき審査を行い、相当と認められるものについては承認し、おきなわ県民カレッジ連携講座承認書(様式2)により通知するものとする。

(受講者の募集及び決定)

第5条 受講者の募集及び決定は、各実施機関が行う。

(単位の認定)

第6条 連携講座の単位認定は、学長が行う。

(経費及び運営)

第7条 連携講座の開設及び運営に要する費用は、すべて各実施機関が負担するものとする。

2 この要項に定めるもののほか、講座の運営に関することは、各実施機関が行う。

(補則)

第8条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附則

この要項は、平成17年4月28日から施行する。

附則

この要項は、平成22年9月2日から施行する。



国頭教育事務所(広域学習サービス講座)
「スポーツと幼児教育の融合」



中頭教育事務所(広域学習サービス講座)
「琉球に伝わる食の知恵」



那覇教育事務所(広域学習サービス講座)
「バックヤードツアー(県立博物館・美術館)」



島尻教育事務所(広域学習サービス講座)
「2大ヒーロー「飛び安里」「ウルトラマン」の聖地」



宮古教育事務所(広域学習サービス講座)
「点字講座」



八重山教育事務所(広域学習サービス講座)
「家庭でできる島豆腐づくり」

令和7年度 おきなわ県民カレッジ報告書 令和8年3月発行

発行

沖縄県教育庁 生涯学習振興課 生涯学習推進センター
〒900-0029 沖縄県那覇市旭町116-37 南部合同庁舎4階
TEL 098-864-0474 FAX 098-864-0476
<https://www.pref.okinawa.jp/edu/shogai/index.html>

